

持続的な、
社会と世界を。

北陸から

農林水産省 北陸農政局
(一般職行政)

北陸農政局総務課 採用チーム

CONTENTS

本日はお話しすること

01

国家公務員とは

02

日本の課題と
農林水産省のミッション

03

北陸農政局の組織
・ 職場環境 ・ 採用情報

CONTENTS

本日お話しすること

01

国家公務員とは

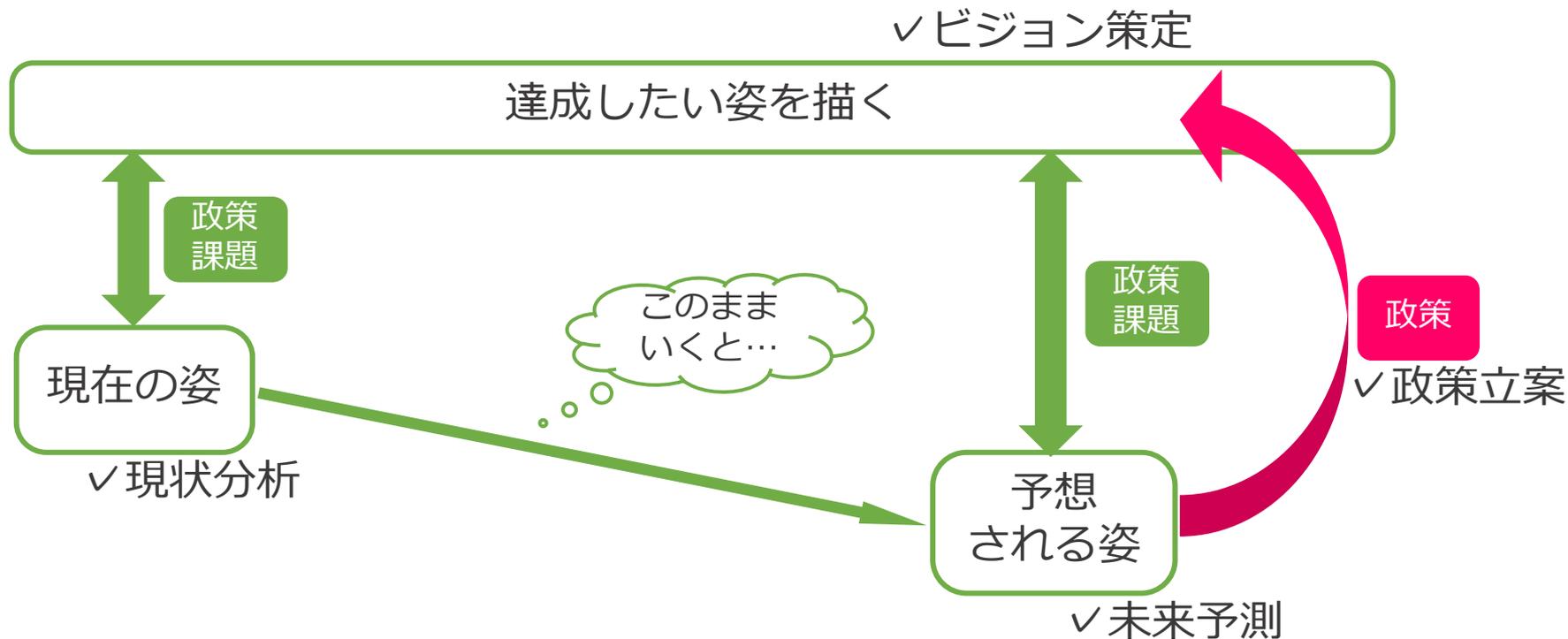
02

日本の課題と
農林水産省のミッション

03

農林水産省の組織
・ 職場環境 ・ 採用情報

国家公務員って？（全体像）



- 現状分析→ビジョン策定→政策課題の特定・未来予測→政策立案→合意形成→政策実施
- いわゆる「社会を良くするしごと」
ただし、地方自治体や民間企業も、社会を良くするために働いているのは同じ。
違いは、1. 使えるツール（法律、予算、税制）
2. 「日本全体」の利益を考える役割

CONTENTS

本日はお話しすること

01

国家公務員とは

02

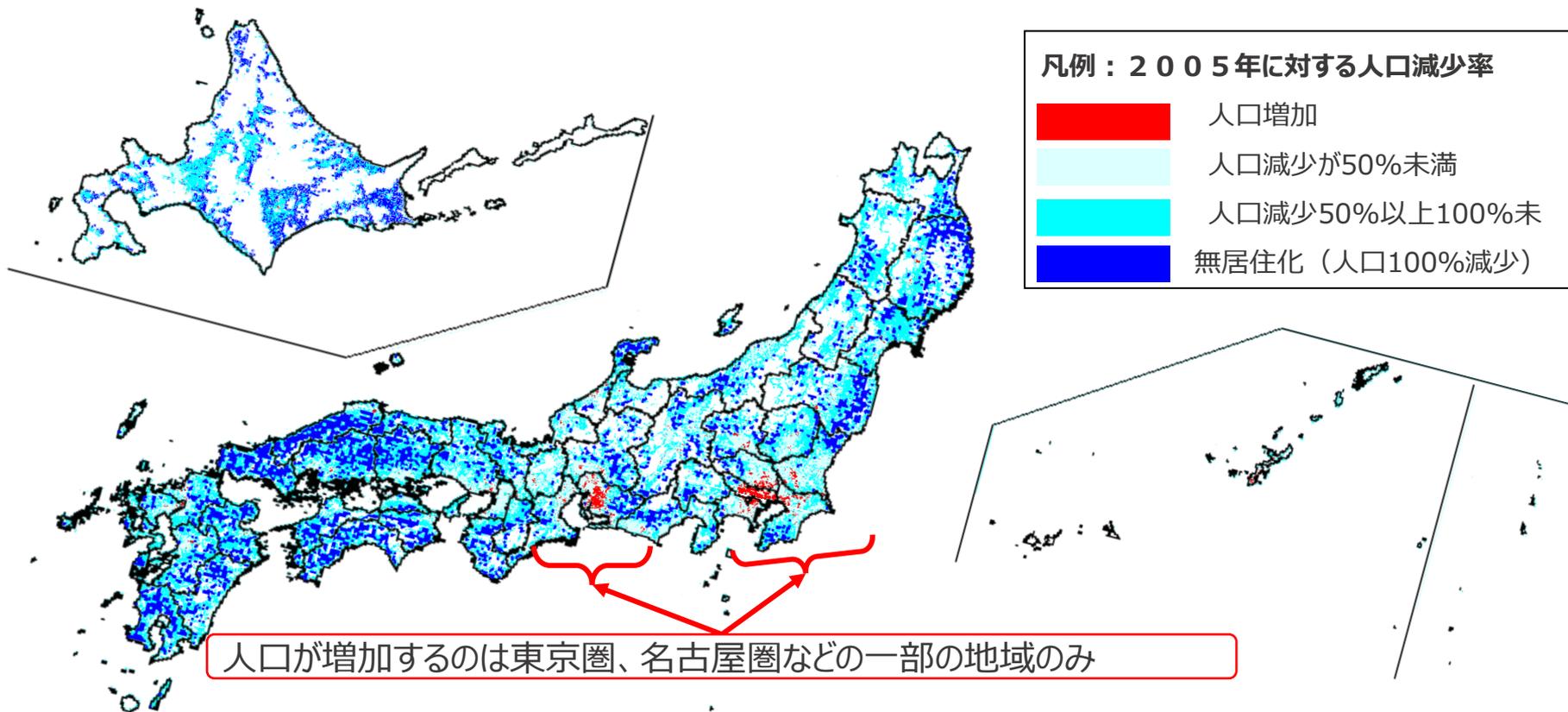
日本の課題と
農林水産省のミッション

03

北陸農政局の組織
・ 職場環境 ・ 採用情報

日本の課題：人口減少と過疎化

大都市における超低出生率・地方における都市への人口流出＋低出生率が日本全体の人口減少につながっている。



資料： H23.2.21 国土審議会政策部会長期展望委員会資料より抜粋改変

・総務省「国勢調査報告」、国土交通省国土計画局推計値（メッシュ別将来人口）をもとに、コーホートを用い、出生と死亡にかかる「自然増減」及び転出入にかかる純移動の「人口変動要因」のそれぞれについて将来値を仮定し推計。

・2005年を100とした場合の2050年の人口割合を1km²区画でプロット（白色部分は1km²あたり人口がデータ上1人に満たない場合）。

人口減少・過疎化の何が問題なのか

人口減少、過疎化は地方だけではなく**日本全体の課題**

【GDP世界4位】

過疎化・人口減少の加速化による消費・経済力の低下
(日本の国際的プレゼンス低下)

(地方出身者) 自分が生まれ育った故郷がなくなる喪失感

食料供給機能の低下

※農業産出額のうち大都市近郊県(茨城・千葉・愛知)の割合は約13.7%

ライフスタイルの制約
→暮らせる田舎、観光資源の喪失

多面的機能の低下

※食料供給以外の多面にわたる機能(洪水・土砂崩れ防止などの国土保全機能)

多様な文化の喪失
歴史・自然環境をベースに築いてきた文化的多様性の喪失

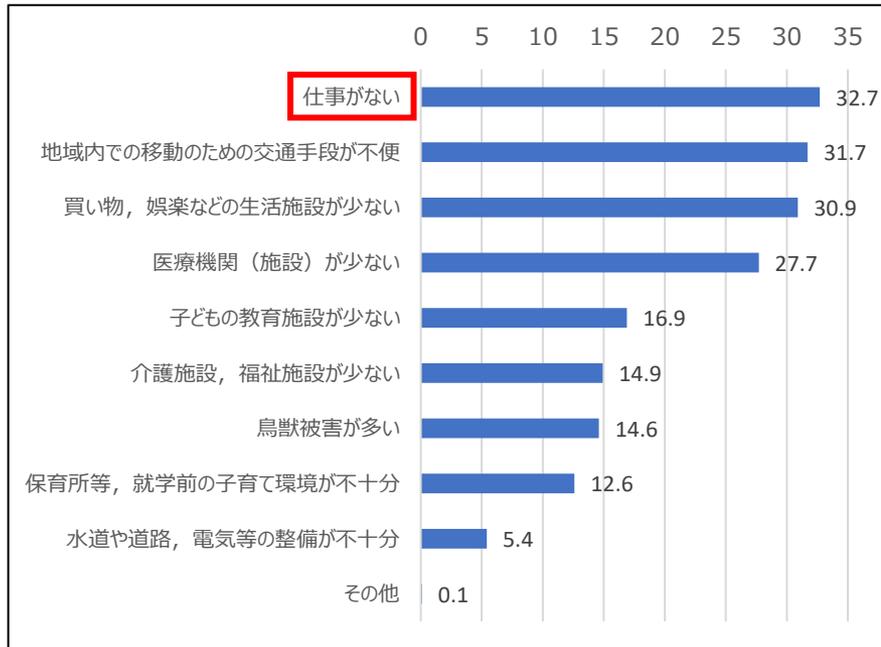
※平成29年度生産農業所得統計

※農業・農村の多面的機能は貨幣価値で算出可能なものだけで年間約8兆円

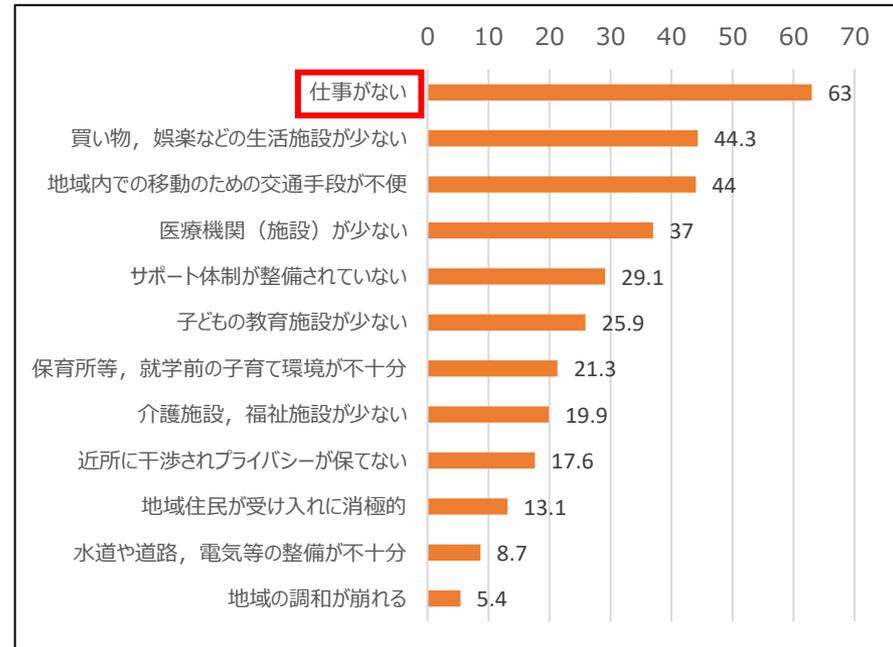
過疎化を食い止めるには

農山漁村地域での生活で困るのは「仕事がない」こと

（農山漁村地域住民に対し）農山漁村地域での生活で困っていることは何か。



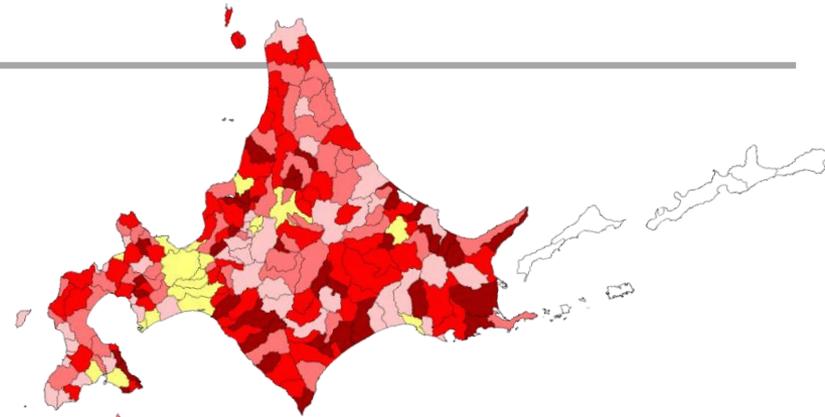
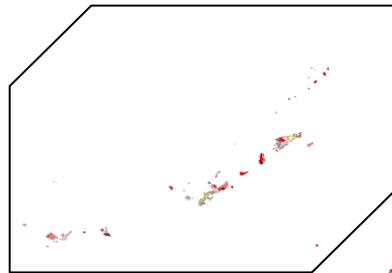
（農山漁村地域住民に対し）都市住民が農山漁村地域に定住する際の問題点は何か。



※資料：平成26年6月農山漁村に関する世論調査（内閣府）
※それぞれ複数回答可、総回答者数700人

地方に仕事はないのか

仕事はある。農林水産業が。

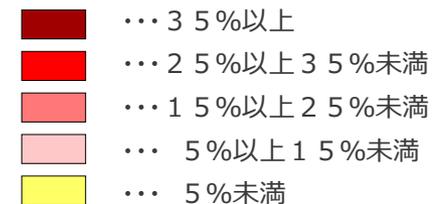


1. 全国の就業人口に占める第1次産業就業者の割合の平均は約4%。
(H22国勢調査)

2. 旧市町村^(注)ごとに見ると、第一次産業就業者の割合が5%以上の市町村^(注)は全体の73.5%(2,375市町村)、面積では78%を占めている。

注：平成の大合併前の旧市町村(H12.10.1時点、計3,231市町村)で集計

【1次産業就業者の割合】

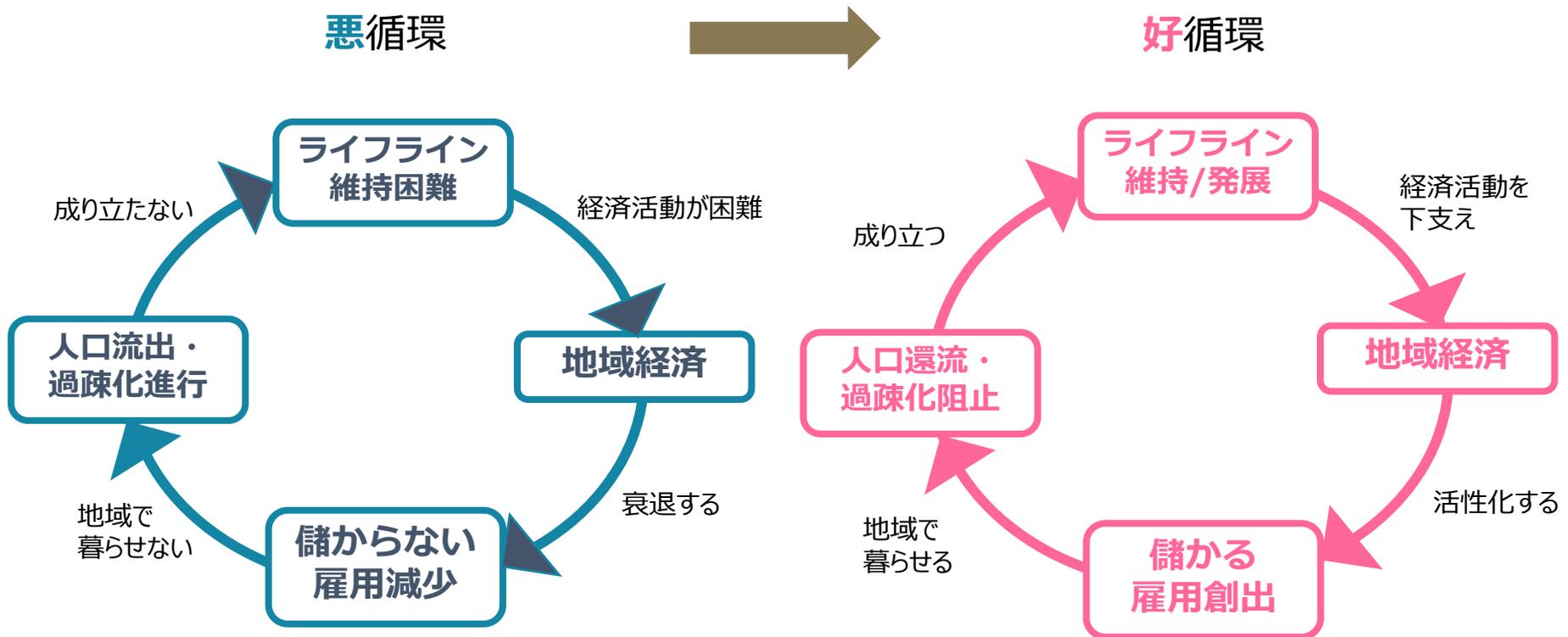


H22国勢調査をもとに農林水産省で作成

問題は魅力的な就業先ではないこと

問題は、地方の主要産業である農林水産業（及び食品関連産業）が、地方居住者の魅力的な就業先として機能していないこと。

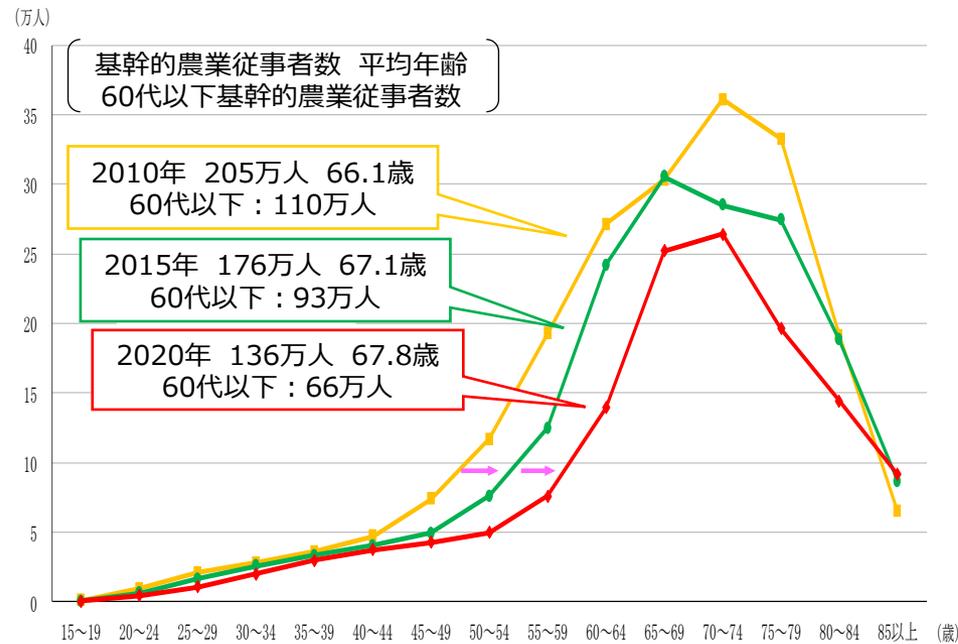
➡ 地方居住者の魅力的な就業先として機能させたい



農林水産業の課題：高齢化

平均年齢69.2歳。高齢化が主要国と比較しても突出。
持続的に産業として発展させるためには、若年層の参入が必要。

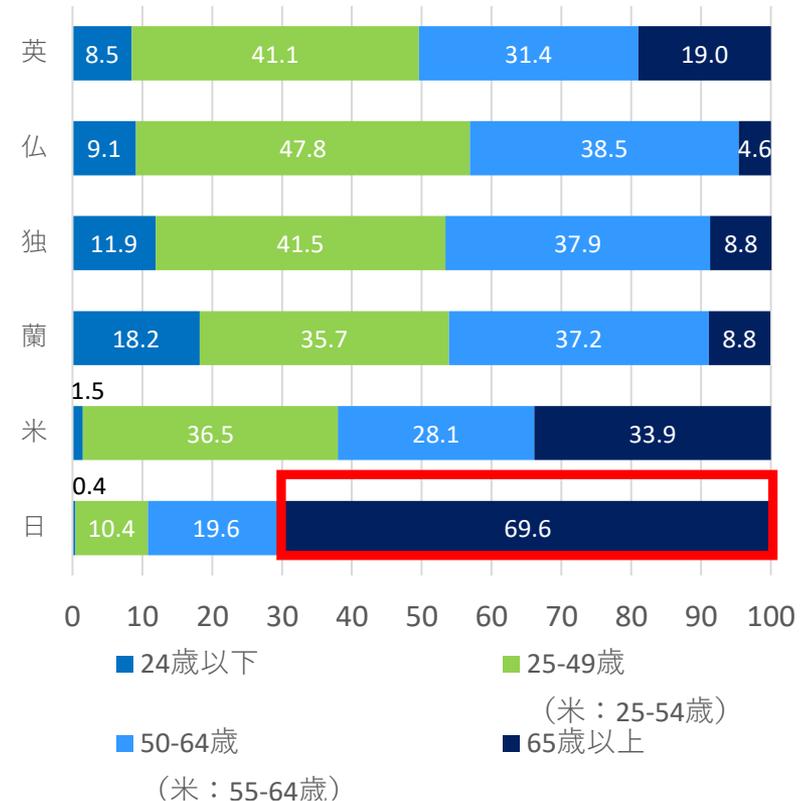
○基幹的農業従事者の年齢構成



資料：農林水産省「農林業センサス」(組替集計)

基幹的農業従事者とは、農業就業人口(自営農業に主として従事した世帯員)のうち、ふだんの仕事として主に自営農業に従事している者

○各国の農業従事者の年齢構成



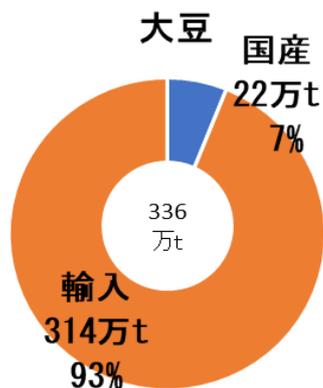
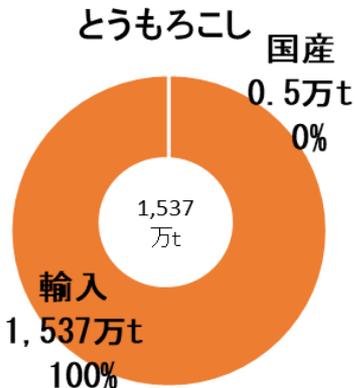
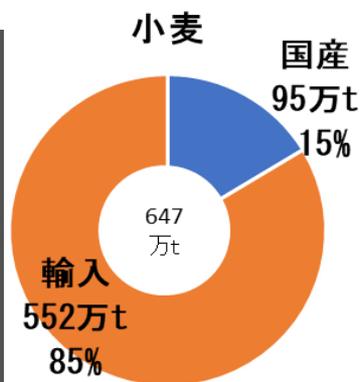
【資料】

英は、EUROSTAT (2019) : 農業に従事した世帯員
 仏独蘭は、EUROSTAT (2020) : 農業に従事した世帯員
 米は、米国農務省「2017年農業センサス」
 : 農業に従事した世帯員
 日は、農林水産省「農林業センサス」(令和2年)
 : 基幹的農業従事者

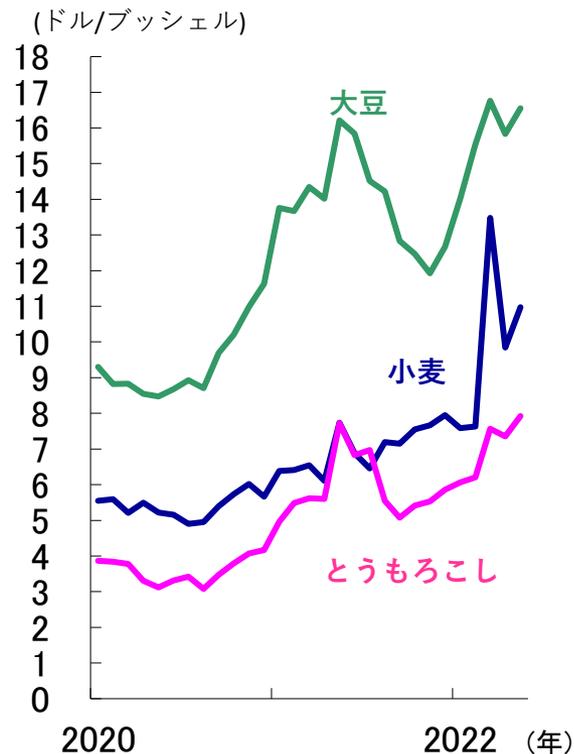
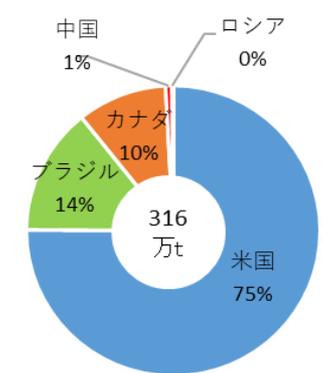
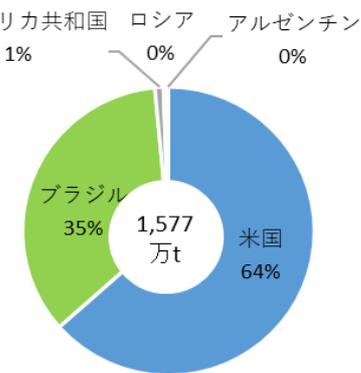
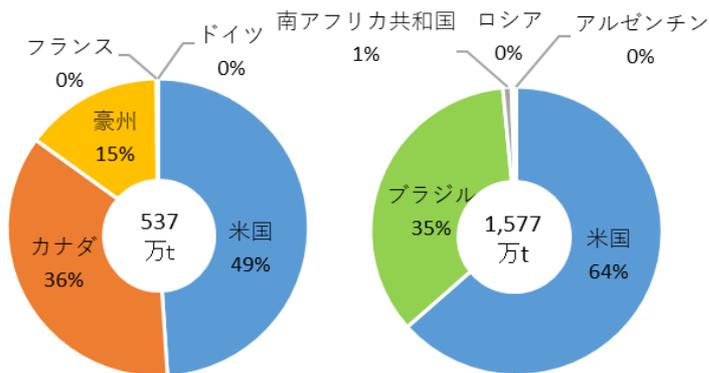
日本の食の課題：輸入だけで大丈夫？

米以外の穀物は大きく**輸入に依存**。一方で、**気候変動**や**新興国の輸入需要の増加（食料争奪戦）**、**ウクライナ情勢**により、相場は**高騰**

国内消費(令和2年度)



輸入内訳(2020年)

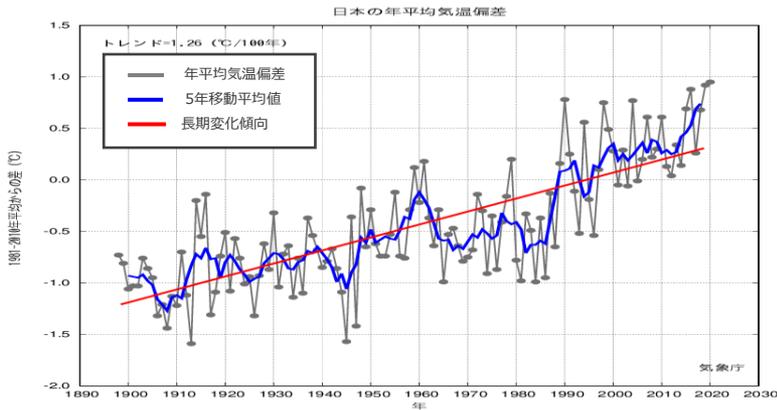


注1：主な用途は、小麦は食糧用、とうもろこしは飼料用、大豆は油糧用である。
 注2：国内消費は、農林水産省「食料需給表」（令和2年度）、国産とうもろこし（飼料用のみ）の値は農林水産省調べ（令和2年産）。
 輸入内訳は、財務省「貿易統計」（2020年）を基に農林水産省にて作成。
 注3：小数点以下四捨五入のため、合計値が合わない場合がある。
 注4：単純化のため輸出、在庫分は捨象し、国内消費＝国内生産＋輸入と仮定。
 注5：国内消費における国産、輸入については、食料自給率算定方法に従い、加工品も原料換算して含めた（例：ビスケットに含まれる小麦分を小麦としてカウント）値としている一方、輸入内訳については、加工品の原料分は含まない値である。

日本の食の課題：地球環境の変化

- 日本の年平均気温は、**100年あたり1.26℃**の割合で上昇。
2020年の日本の年平均気温は、統計を開始した1898年以降**最も高い値**。
- 農林水産業は気候変動の影響を受けやすく高温による**品質低下**などが発生。

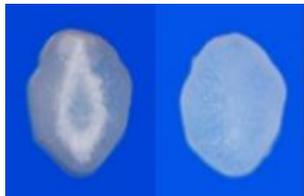
■ 日本の年平均気温偏差の経年変化



年平均気温は長期的に上昇しており、特に1990年以降、高温となる年が頻出

■ 農業分野への気候変動の影響

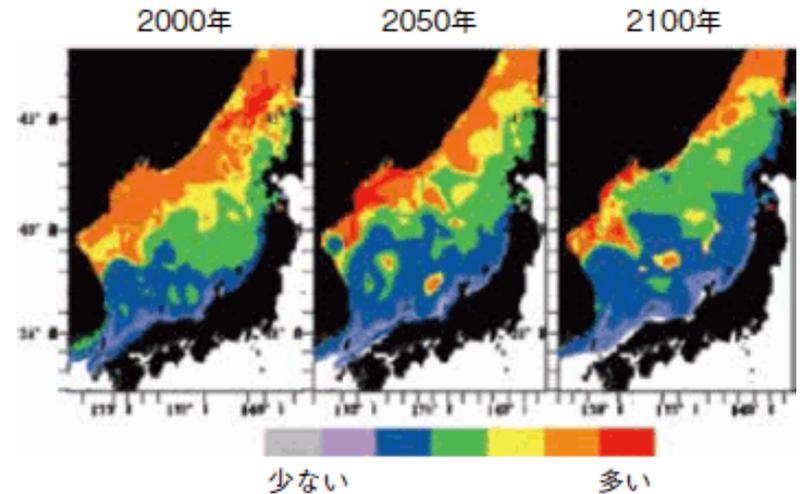
- ・ 水稲：高温による品質の低下
- ・ リンゴ：成熟期の着色不良・着色遅延



白未熟粒(左)と正常粒(右)の断面



■ 温暖化による水温予測結果を用いたスルメイカの分布密度予測図



農林水産省ビジョン・ステートメント

わたしたち農林水産省は、
いのち
生命を支える「食」と安心して暮らせる「環境」を
未来の子どもたちに継承していくことを使命として、

常に国民の期待を正面から受けとめ
時代の変化を見通して政策を提案し、
その実現に向けて全力で行動します。

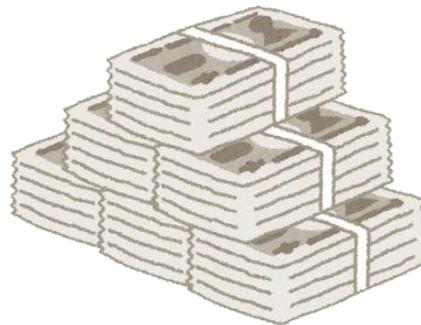
これから必要なこと：農林水産業の持続的な発展

「食」と「環境」を未来に繋ぐため

- ・ **食料安定供給の機能の向上**
- ・ **農山漁村**（ひいては日本全体）の**活力維持・向上**
を実現できるように、**農林水産業の持続的な発展**が不可欠。

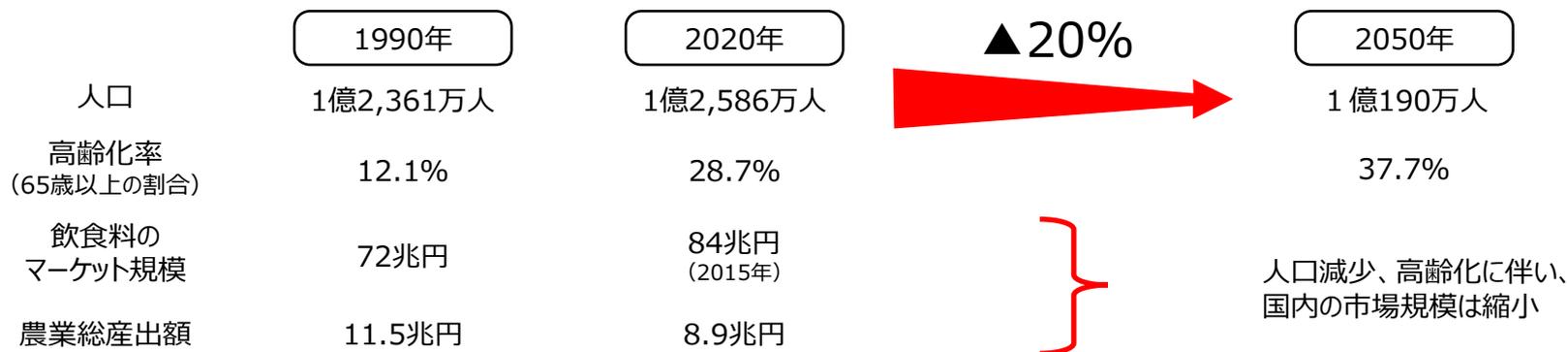
単純に言うと…

$$P \text{ (価格)} \times Q \text{ (量)} - C \text{ (コスト)} = R \text{ (収入)}$$



(前提として) 国内市場の変化

- 国内の市場規模は、人口減少や高齢化に伴い、縮小。
- 急速な需要の減少が、日本の農林水産業に大きな影響を与えることは不可避。



資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」
農林水産省「農林漁業及び関連産業を中心とした産業連関表（飲食費のフローを含む。）」、「生産農業所得統計」

○一人当たり食料支出額（単位：％）

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
合計	100	103	105	108	112	116
生鮮食品	100	99	95	93	91	89
加工食品	100	105	110	117	124	132
外食	100	104	106	108	110	113

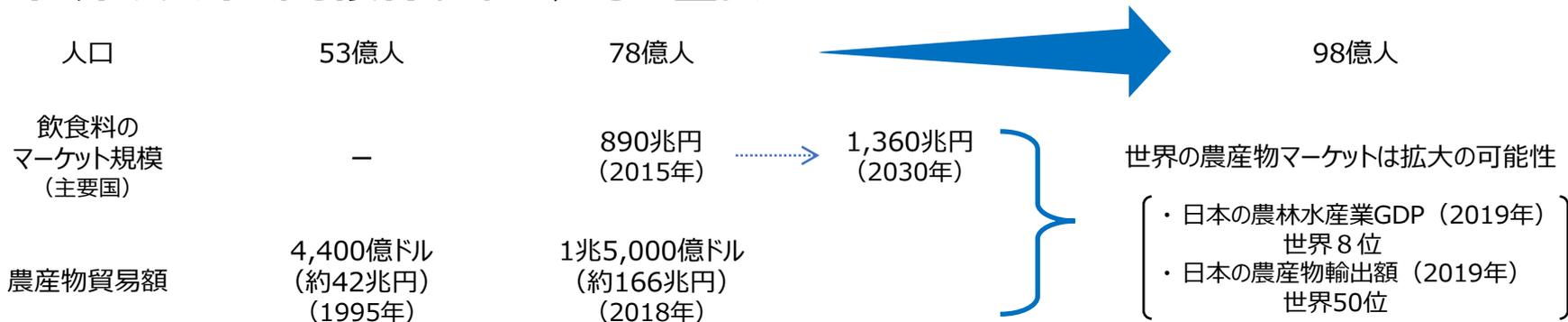
資料：農林水産政策研究所「我が国の食料消費の将来推計」（2019年版）

○食料支出総額（単位：％）

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
合計	100	101	100	100	99	98
生鮮食品	100	97	91	85	80	75
加工食品	100	103	105	107	109	111
外食	100	102	100	99	97	95

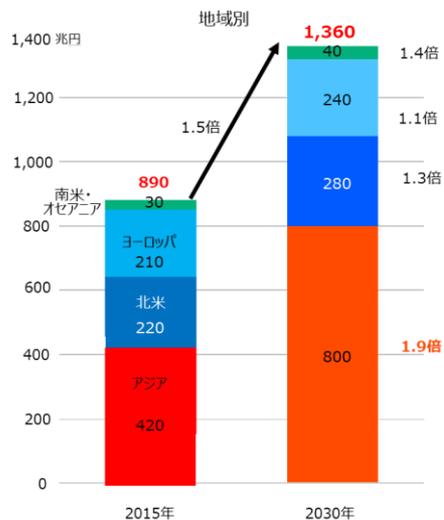
(前提として) 海外のマーケットを取り込んでいくことが重要。

- 世界の農産物マーケットは、人口の増加に伴い、拡大する可能性。
- 農林水産業の生産基盤を維持・強化し、農林水産物・食品の輸出促進により世界の食市場を獲得していくことが重要。



資料：国際連合「世界人口予測・2017年改訂版」、農林水産政策研究所「世界の飲食料市場規模の推計」、FAO「世界農産物市場白書 (SOCO) : 2020年報告」

○世界の飲食料市場規模



○国別・部門別の飲食料市場規模

単位：兆円

	2015年				2030年			
	生鮮品	加工品	外食	合計	生鮮品	加工品	外食	合計
アジア	221	146	57	424	409	292	93	794
北米	47	93	83	223	55	105	125	284
ヨーロッパ	53	97	60	211	62	105	75	242
南米・オセアニア	12	12	9	32	15	16	14	45
34か国・地域計	333	348	210	890	541	518	306	1,364

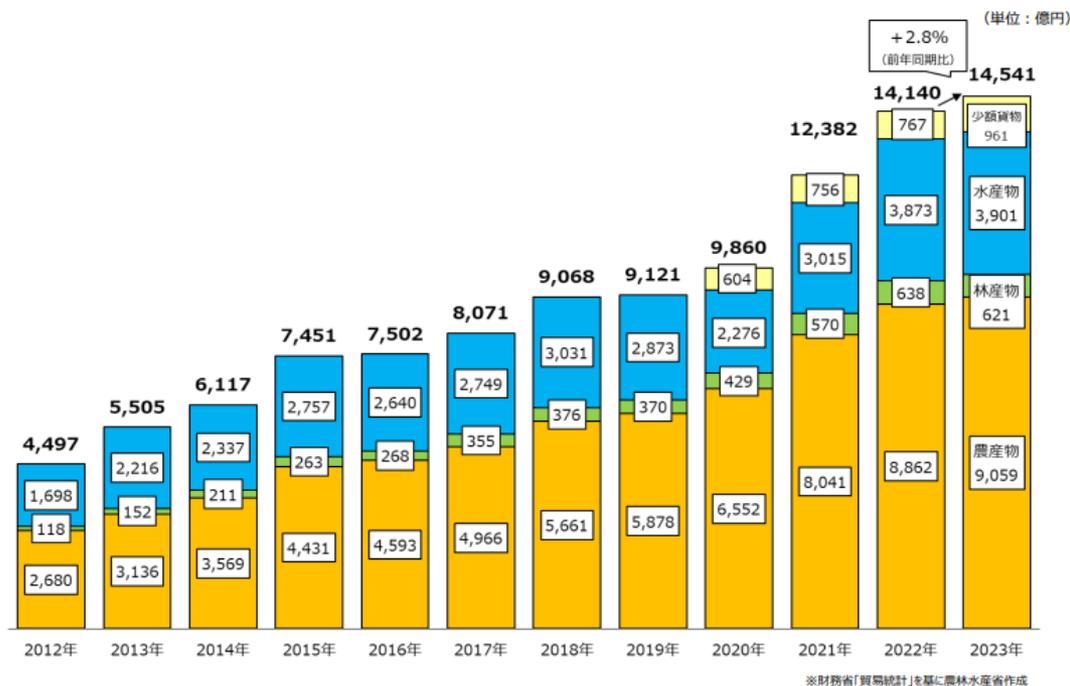
資料：農林水産政策研究所「世界の飲食料市場規模の推計」

※グラフの数値は四捨五入して表示してある。

農林水産業の持続的な発展：①輸出促進

近年急速に増加。2021年 1兆円目標を突破！
2030年輸出額 5兆円の目標達成を目指す。

○農林水産物・食品の輸出額



○諸外国の農産物・食品の輸出割合

(億ドル)

国名	生産額 (農産物・ 食品製造業)	輸出額 (農産物・ 加工食品)	輸出割合
アメリカ	12,335	1,442	12%
フランス	2,591	730	28%
イタリア	2,302	485	21%
イギリス	1,548	286	18%
オランダ	1,066	1,018	95%
日本	4,725	84	2%

注：日本以外の諸外国の林業・漁業生産額については、比較可能な統計がないことから、生産額、輸出額とも含めていない。日本のみ農林水産物として算出。

資料：FAOSTAT, 三井物産戦略研究所, Global Trade Atlas, 生産農業所得統計, 工業統計, 林業産出額, 漁業産出額, 農業・食料関連産業の経済計算

輸出のための取組

○ 我が国においても、品目団体の組織化や輸出先国における専門的・継続的な支援体制の強化に着手。

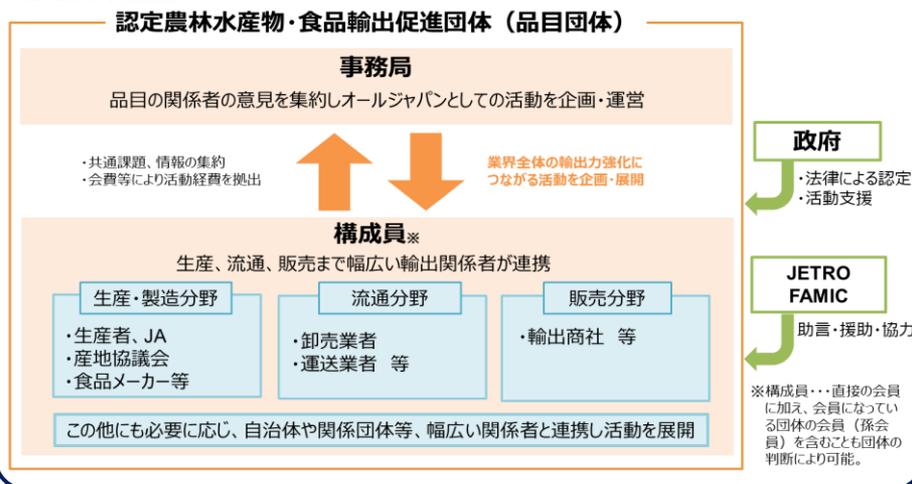
品目団体の組織化及びその取組の強化

輸出促進法による品目団体の認定制度を創設し、以下の取組を推進

- ① 輸出先国・地域の市場等の調査やジャパンブランドを活用した広報宣伝等の業界一体での需要開拓
- ② 輸出拡大に効果的な業界規格の策定
- ③ 会員等を対象とする任意のチェックオフなど自主財源の増加

- 他の先進国並の輸出促進の体制を構築
- 日本の強みがある品目をオールジャパンで販売する体制を整備

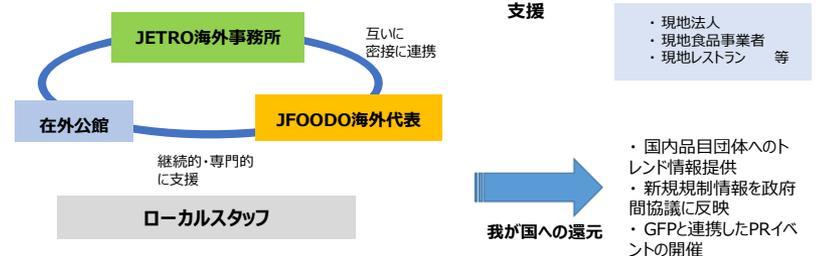
<認定団体の体制イメージ>



輸出先国・地域における専門的・継続的な支援体制の強化

- 主要な輸出先国・地域において、在外公館とJETRO海外事務所等を主な構成員とする輸出支援プラットフォームを設立
- 食品産業等に精通した人材をローカルスタッフとして速やかに雇用・確保し、輸出先国で輸出事業者を包括的・専門的・継続的に支援
- 輸出支援プラットフォーム設置都市
米国（ロサンゼルス、ニューヨーク）、
EU（パリ）、
ベトナム（ホーチミン）、シンガポール（シンガポール）、
タイ（バンコク）、中国（上海、北京、広州、成都）、
香港（香港）、台湾（台北）

プラットフォーム（輸出先国・地域における公的支援）



国際交渉 ～例えば、輸入規制～

- 原発事故に伴い諸外国・地域において講じられた輸入規制は、政府一体となった働きかけの結果、緩和・撤廃される動き（規制を設けた55の国・地域のうち、48の国・地域で輸入規制を撤廃、7の国・地域で輸入規制を継続）。

◇諸外国・地域の食品等の輸入規制の状況※1

2024年5月30日時点

規制措置の内容／国・地域数※		国・地域名
事故後輸入規制を措置	規制措置を撤廃した国・地域	49 カナダ、ミャンマー、セルビア、チリ、メキシコ、ペルー、ギニア、ニュージーランド、コロンビア、マレーシア、エクアドル、ベトナム、イラク、豪州、タイ、ポリビア、インド、クウェート、ネパール、イラン、モーリシャス、カタール、ウクライナ、パキスタン、サウジアラビア、アルゼンチン、トルコ、ニューカレドニア、ブラジル、オマーン、バーレーン、コンゴ民主共和国、ブルネイ、フィリピン、モロッコ、エジプト、レバノン、UAE、イスラエル、シンガポール、米国、英国、インドネシア、EU、アイスランド、ノルウェー、スイス、リヒテンシュタイン、仏領ポリネシア
	輸入規制を継続して措置	1 ロシア
55	6	5 中国、香港、マカオ、韓国、台湾

◇最近の規制措置撤廃の例

◇最近の輸入規制緩和の例

撤廃年月	国・地域名
2021年 1月	イスラエル
5月	シンガポール
9月	米国
2022年 6月	英国
7月	インドネシア
2023年 8月	EU、アイスランド、ノルウェー、スイス、リヒテンシュタイン
2024年5月	仏領ポリネシア

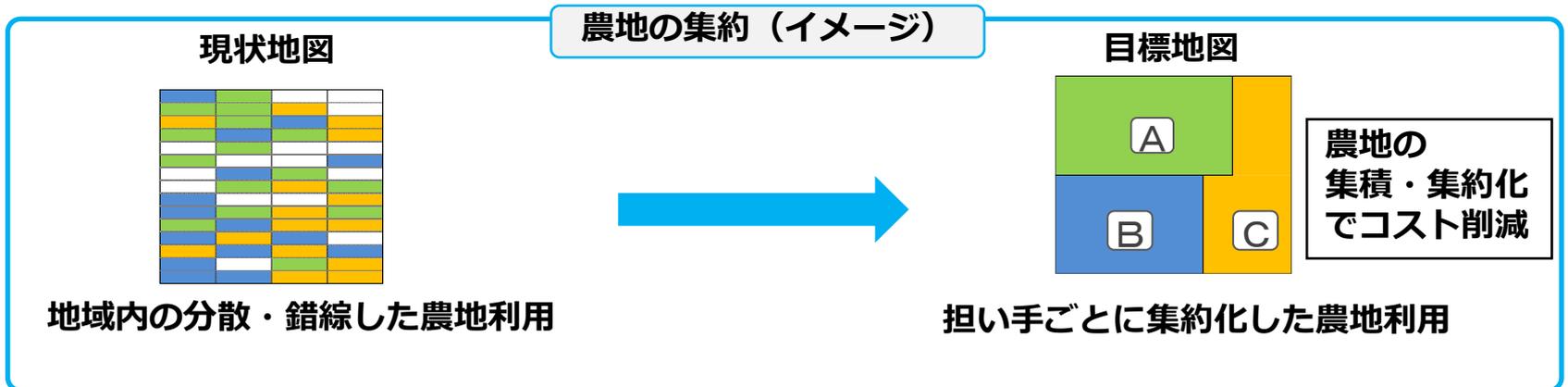
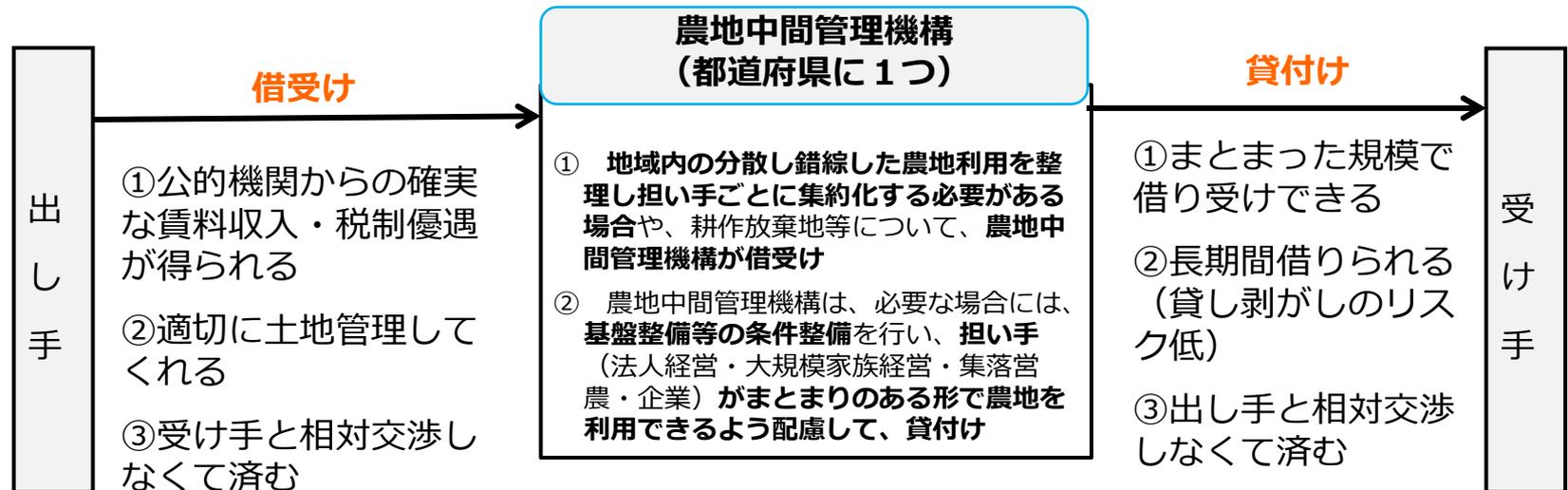
緩和年月	国・地域名	緩和の主な内容
2019年10月	マカオ	・輸入停止（宮城等9都県産の野菜、果物、乳製品）→商工会議所のサイン証明で輸入可能に ・放射性物質検査報告書（9都県産の食肉、卵、水産物等）→商工会議所のサイン証明に変更 ・放射性物質検査報告書（山形、山梨県産の野菜、果物、乳製品等）→不要に
2021年 1月	香港	・5県産（福島、茨城、栃木、群馬及び千葉）の野菜、果物、牛乳、乳飲料、粉乳、水産物、食肉及び家禽卵を除く食品に対する全ロット検査 →廃止
3月	仏領ポリネシア	・①第三国経由で日本から輸入される食品・飼料、②漁業用のエサ(fishing bait)として使用される水産物に対する放射性物質検査証明書及び産地証明書 →不要に
2022年 2月	台湾	・5県産（福島、茨城、栃木、群馬及び千葉）輸入停止 →一部品目を除き解除 ・放射性検査報告書の対象品目が縮小

※1 規制措置の内容に応じて分類。規制措置の対象となる都道府県や品目は国・地域によって異なる。

※2 タイ及びUAE政府は、検疫等の理由により輸出不可能な野生鳥獣肉を除き撤廃。

農林水産業の持続的な発展：②農地集積による大規模化・コストダウン

- 離農者などは「**農地中間管理機構**」（**農地バンク**）に農地を預け、地域の話合いに基づき市町村が作成する「**目標地図**」に沿って、農地バンクが企業を含む「**担い手**」に一括で貸出し。



農林水産業の持続的な発展：③テクノロジー活用

AIやロボット等を活用し、生産性の向上を図る



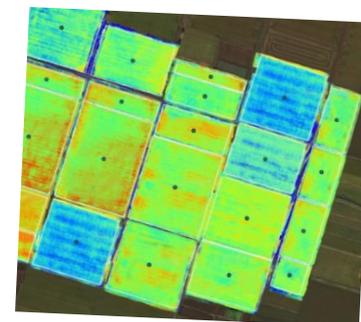
無人作業中の自動運転田植機



計測時間：約1分/60000株/30a



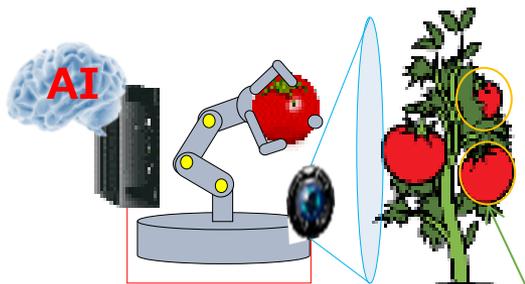
水稻の葉色マップ例



薄 ← 濃

薄 ← 葉色 → 濃
(不良 生育状況 良)

リモートセンシングによる農場の可視化



情報処理量を減らせるので速い

葉や茎をよけることを学習するので獲れる

AIを活用した野菜収穫ロボットの開発

農林水産業の持続的な発展：④みどりの食料システム戦略

みどりの食料システム戦略（概要）

～食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現～
Measures for achievement of Decarbonization and Resilience with Innovation (MeaDRI)

令和3年5月
農林水産省

現状と今後の課題

- 生産者の減少・高齢化、地域コミュニティの衰退
- 温暖化、大規模自然災害
- コロナを契機としたサプライチェーン混乱、内食拡大
- SDGsや環境への対応強化
- 国際ルールメイキングへの参画



「Farm to Fork戦略」(20.5)

2030年までに化学農薬の使用及びリスクを50%減、有機農業を25%に拡大



「農業イノベーションアジェンダ」(20.2)

2050年までに農業生産量40%増加と環境フットプリント半減

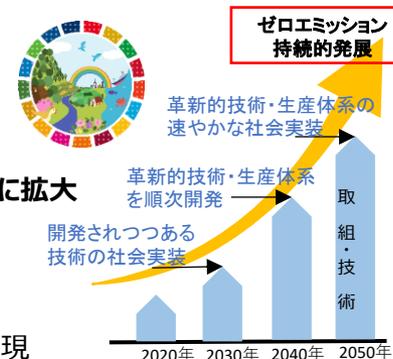
農林水産業や地域の将来も見据えた持続可能な食料システムの構築が急務

持続可能な食料システムの構築に向け、「みどりの食料システム戦略」を策定し、中長期的な観点から、調達、生産、加工・流通、消費の各段階の取組とカーボンニュートラル等の環境負荷軽減のイノベーションを推進

目指す姿と取組方向

2050年までに目指す姿

- 農林水産業のCO2ゼロエミッション化の実現
- 低リスク農業への転換、総合的な病害虫管理体系の確立・普及に加え、ネオニコチノイド系を含む従来の殺虫剤に代わる新規農薬等の開発により化学農薬の使用量（リスク換算）を50%低減
- 輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量を30%低減
- 耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%(100万ha)に拡大
- 030年までに食品製造業の労働生産性を最低3割向上
- 2030年までに食品企業における持続可能性に配慮した輸入原材料調達の実現を目指す
- エリートツリー等を林業用苗木の9割以上に拡大
- ニホンウナギ、クロマグロ等の養殖において人工種苗比率100%を実現



戦略的な取組方向

- 2040年までに革新的な技術・生産体系を順次開発（技術開発目標）
- 2050年までに革新的な技術・生産体系の開発を踏まえ、今後、「政策手法のグリーン化」を推進し、その社会実装を実現（社会実装目標）
- ※政策手法のグリーン化：2030年までに施策の支援対象を持続可能な食料・農林水産業を行う者に集中。2040年までに技術開発の状況を踏まえつつ、補助事業についてカーボンニュートラルに対応することを目指す。補助金拡充、環境負荷軽減メニューの充実とセットでクロスコンプライアンス要件を充実。
- ※革新的技術・生産体系の社会実装や、持続可能な取組を後押しする観点から、その時点において必要な規制を見直し。地産地消型エネルギーシステムの構築に向けて必要な規制を見直し。

期待される効果

経済

持続的な産業基盤の構築

- ・輸入から国内生産への転換（肥料・飼料・原料調達）
- ・国産品の評価向上による輸出拡大
- ・新技術を活かした多様な働き方、生産者のすそ野の拡大

社会

国民の豊かな食生活 地域の雇用・所得増大

- ・生産者・消費者が連携した健康的な日本型食生活
- ・地域資源を活かした地域経済循環
- ・多様な人々が共生する地域社会

環境

将来にわたり安心して暮らせる地球環境の継承

- ・環境と調和した食料・農林水産業
- ・化石燃料からの切替によるカーボンニュートラルへの貢献
- ・化学農薬・化学肥料の抑制によるコスト低減

アジアモンスーン地域の持続的な食料システムのモデルとして打ち出し、国際ルールメイキングに参画（国連食料システムサミット（2021年9月）など）

農山漁村の振興：⑤農山漁村滞在型旅行「農泊」

- 「農泊」とは、**農山漁村に宿泊**し、滞在中に**地域資源を活用した食事や体験等**を楽しむ「**農山漁村滞在型旅行**」。
- 「農泊」の狙いは、古民家・ジビエ・棚田など農山漁村ならではの**地域資源を活用した様々な観光コンテンツ**を提供し、**農山漁村への長時間の滞在と消費**を促すことにより、農山漁村における「しごと」を作り出し、**持続的な収益を確保して地域に雇用を生み出す**とともに、農山漁村への移住・定住も見据えた**関係人口の創出の入り口**とすること。

農泊における多様なコンテンツ

<SAVOR JAPAN >



もろ料理/岩手県

食

<ジビエ>



鹿肉のロースト
北海道鶴居村

<農作業体験>



田植え体験
栃木県大田原市

体験

<アドベンチャーツーリズム>



サイクリング
広島県尾道市

<棚田百選の景観>



棚田
和歌山県有田川町

宿泊

<地域文化>



長良川上中流域 鶺鴒い
岐阜県岐阜市

<古民家一棟貸し>



京都府南丹市美山町

<農家民宿>



福井県鯖江市

<廃校活用ホテル>



鳥取県八頭町

自治体・地域おこし協力隊・特定地域づくり事業協同組合
などによるサポート

地域の多様な関係者が集まる地域協議会の枠組み
において地域一体となって実施

立ち寄るのみだと...

滞在時間：短 → 「通過型観光」



利益は限定・局所的

宿泊・体験コンテンツが充実すると...

滞在時間：長 → 「滞在型観光」



地域の利益の最大化



・農泊を支える体制を構築する中で
地域の雇用も

・多様な交流はピーターを生み移住・定住のきっかけに

国民理解の醸成



47都道府県合同企画

ニッポンは、ずっとおいしいか？

みなさんがこれから、
商社に入っても、
電機メーカーに入っても、
建設業界に入っても、
IT業界に入っても、
知らん顔できないのは「食」のこと。

就活を頑張るみなさんに、「食」を
聞きたい理由があります。

カレーから
日本を考える。

素材とスパイスにこだわったカレー。
自分の好みを落としながら、
日本の「食」のことを考えてみませんか。

農林水産省 農産物振興課



ハロプロのアイドルが、「さかなの日応援隊」なんです。

おいしい×サステナ=いい未来

さかなの日

毎月3日から7日は
さかなを食べよう

おいしい×サステナって何だろう？ <https://sakananohi.jp/>

水産庁



さかなクンが、さかなの日アンバサダーなんです。

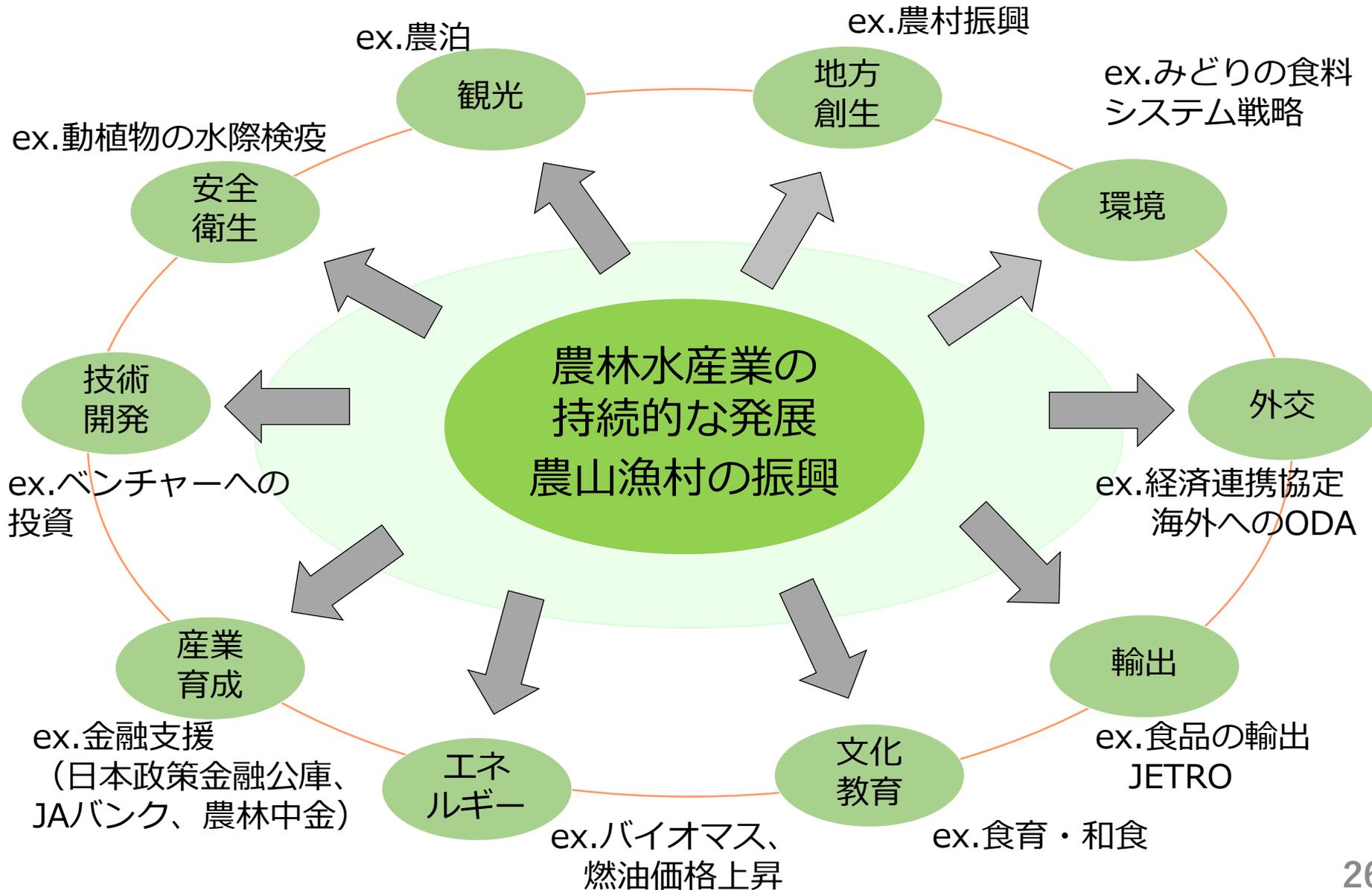
食から日本を考える。
NIPPON FOOD SHOUT

俺たち7世代が
日本の「食」に「農」を
応援するんだー！

#食べるぜニッポン！

「日本産水産物を食べよう」キャンペーンを実施。特にSNSを通じた情報発信。Xにて、かなりの反響。

「食」と「環境」を未来に継承するために ～1次産業を核とした多様なフィールドと、豊富な政策ツール～



CONTENTS

本日はお話しすること

01

国家公務員とは

02

日本の課題と
農林水産省のミッション

03

北陸農政局の組織
・ 職場環境 ・ 採用情報

農林水産省の組織

▼農林水産省は、本省（約5千人）と全国の各地方ブロック機関（約1万4千人）で構成され、総定員数は約1.9万人です。

（主な機関）

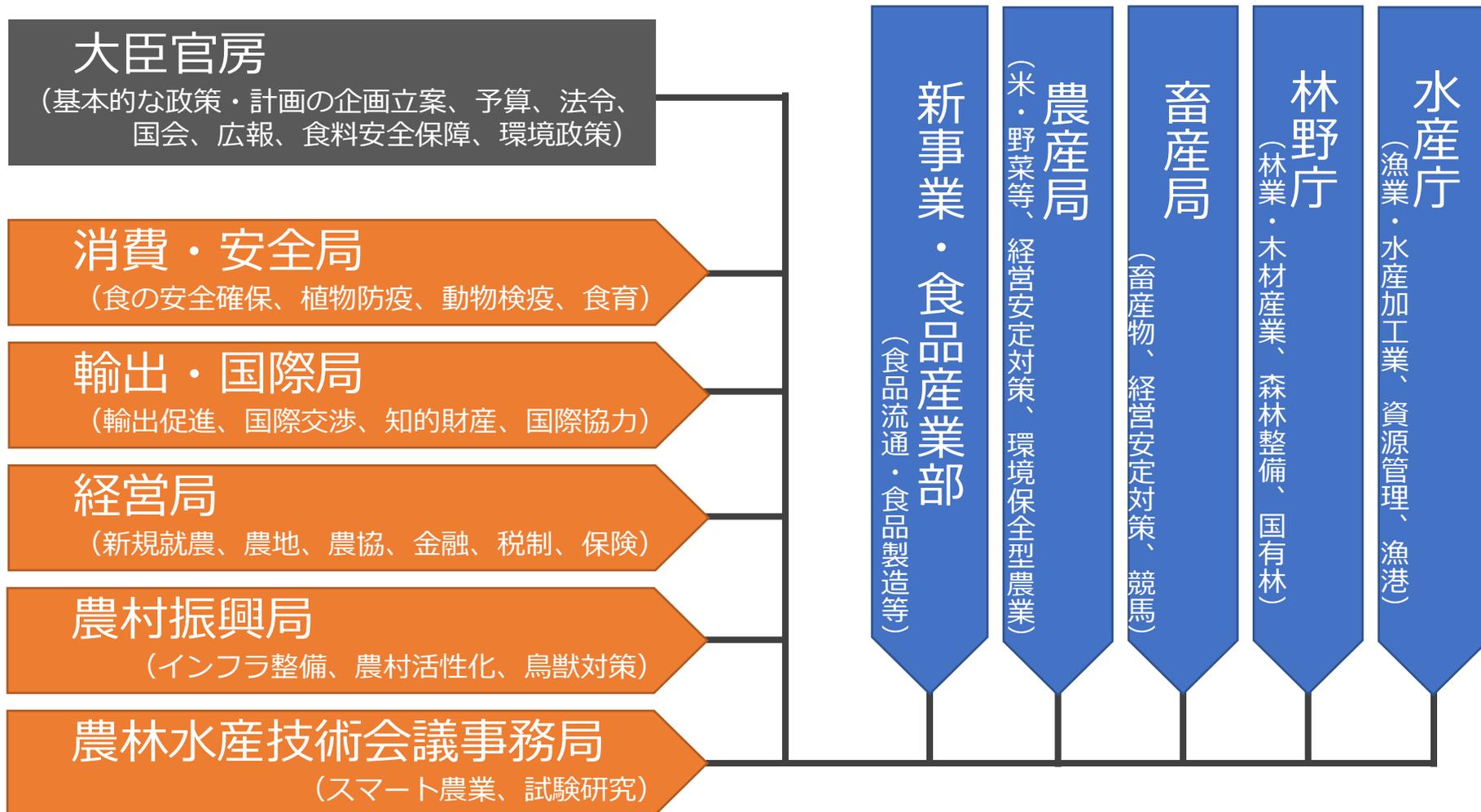
- **本省**…農林水産政策の企画立案
- **地方農政局**…農業政策の実施・周知・把握
- **森林管理局**…国有林野の管理
- **植物防疫所**…植物の輸出入検疫等
- **動物検疫所**…動物の輸出入検疫等

※その他、水産庁の出先機関「漁業調整事務所」があります（札幌、仙台、新潟、境港、神戸、福岡）。



農林水産省の組織（本省）

それぞれの品目（米、肉、魚など）の産業振興を行いながら【縦軸】、全ての品目に**共通する課題**（環境、防疫、国際交渉、新規就農、インフラ整備など）については、品目横断的に政策を打ち出しています【横軸】。



北陸農政局の組織

北陸農政局

北陸地域の農業・農村の特徴や実状を踏まえ、農産物の生産から加工・流通の振興や農業基盤の整備、農業構造の改善等の施策を総合的に推進するとともに、地域農業・経済情勢等を把握して農林水産省の施策に反映させる役割を担っています。

企画調整室

- ・ **各種施策の企画・総合調整等**…各種施策に関する企画・総合調整、広報・報道、災害対策・被害状況のとりまとめ、農林水産品・食料品物価対策、農政全般に関する情報発信・収集及び相談対応等の事務。

総務管理官

- ・ **総務・会計部門**…公文書管理、職員の人事・給与・福利厚生、一般会計・特別会計の経理、国有財産の管理 等

消費・安全部

- ・ **食の安心・安全を確保**…消費者行政、食品表示法等に基づく食品表示の監視、食育の推進、米穀の流通監視、農薬・肥料・飼料等の使用の適正化、牛トレーサビリティ等の事務。

生産部

- ・ **生産の振興**…農畜産物の生産振興等に関する各種指導・助成、米の需給調整、主要食糧の売買・管理、地方競馬監督、各種生産技術対策や環境保全型農業の推進 等

経営・事業支援部

- ・ **経営の支援・食品産業等**…農業経営の改善・安定、輸出の促進、農商工連携の推進、食品産業の育成・振興、農地政策の推進、新規就農・女性の活動促進等の事務。

農村振興部

- ・ **農村の振興**…農業農村整備事業、都市農村交流の推進、農泊推進、農山漁村イノベーション、地産地消、農福連携、農山村地域の活性化、土地改良区の指導・監督、鳥獣被害対策等の事務。

統計部

- ・ **統計調査**…農林水産行政に必要な農林水産業及び農林漁家に関する統計調査の実施やとりまとめ、その結果についての報告書の作成の事務。

県拠点 (各県の県庁所在地)

- ・ **農政全般総合窓口**…農政についての説明や相談に対応する農政全般に関する総合窓口として、自治体等と協力して農政課題の解決に取り組む事務

国営事業所等

- ・ **農業農村整備事業の調査・計画、実施等**

北陸農政局の組織（管内機関の所在地）

◎ 北陸農政局（石川県金沢市）

▲ 県拠点

国営事業所等

- 土地改良技術事務所
- 土地改良調査管理事務所
- 国営事業（務）所

1 信濃川水系土地改良調査管理事務所
（新潟市）

2 西北陸土地改良調査管理事務所
（小松市）

1 石川県拠点（金沢市）

2 新潟県拠点（新潟市）

3 富山県拠点（富山市）

4 福井県拠点（福井市）

1 加治川用水二期農業水利事業所
（新潟県新発田市）

2 新津郷用水農業水利事業所
（新潟県新潟市）

3 新川流域農業水利事業所
（新潟県新潟市）

4 信濃川左岸流域農業水利事業所
（新潟県長岡市）

5 関川用水土地改良建設事業所
（新潟県上越市）

6 水橋農地整備事業所
（富山県富山市）

7 河北潟周辺農地防災事業所
（石川県河北郡内灘町）

01 企画調整室

主な業務内容

農政局が所掌する各種施策に関する企画・総合調整、広報・報道活動、農畜産物等の災害対策のとりまとめ、農畜産物・飲食料品等の物価対策、農政全般に関する情報発信・収集及び相談対応等の事務

職員紹介

企画調整室 調整係

野島 彩永 (のじま さえ)

国際社会学部卒 / 入省2年目



砺波チューリップフェアにて、来場者に「北陸食べて応援」の冊子を配布・PRしました。



志望動機

未来の子どもたちに北陸の豊かな食環境を継承したいと思い、北陸農政局を志望しました。生産者の支援や食育・食文化の発信等、「食」にまつわる幅広い業務に携わることができるのが魅力的だと感じました。

担当業務

各種政策についての局内への情報共有、大臣等の北陸来訪時の対応、行政文書の審査、若手職員向け研修の企画・調整等を担当しています。みどりの食料システム戦略情報発信チームメンバー、BUZZMAFFのメンバーとして、InstagramやYouTubeでの情報発信にも取り組んでいます。

仕事を通して学んだこと

業務に携わる全ての方と綿密にコミュニケーションをとりながら、仕事を進めることの大切さです。業務の進捗や疑問点等をこまめに共有することで、業務が円滑に進むと学びました。また、イベントのチラシや情報発信のためのポスター等の作成を通じ、デザインのスキルも身につきました。

02 総務課

主な業務内容

公文書の管理、情報公開、職員の人事、服務、研修及び福利厚生、共済組合の運営、情報化の推進、情報システムの整備・管理等の事務

職員紹介

総務課 人事第1係

萩原 大空 (はぎわら そら)

人文学類卒 / 入省2年目



担当業務

主に、職員の人事異動や採用に係る業務を担当しています。具体的には、人事異動ビラの作成や採用情報を掲載するためのホームページの作成等を行っています。また、職員の勤務状況の取りまとめや非常勤職員の給与（賃金決定や通勤手当の認定）に係る業務にも携わっています。

入省1年目は出張で何度か奥能登に行く機会がありました。写真は、その時に撮影した稲刈り直前の白米千枚田の様子です。



志望動機

日常生活において欠かすことのできない「食」に対して、公的な立場から多面的に携わりたいという思いがありました。また、説明会で感じた職員の穏やかな雰囲気や人柄の良さも志望動機の一つでした。

仕事を通して学んだこと

目的や背景を念頭に置きながら、業務に臨むことの重要性を学びました。目的や背景を意識しつつ業務を行うことで、業務への理解をさらに深めたり、手戻りを減らしたりすることができる実感しました。また、その過程で改善すべき点が見えてくることもあり、業務の質を向上させるきっかけにもなります。

03 会計課

主な業務内容

入札・契約、歳出・歳入、補助金等の経理、物品の購入・管理、国有財産の管理、宿舍の管理、営繕、庁舎管理等の事務

職員紹介

会計課 支出負担行為係

今西 文弥 (いまにし たけや)

人文学類卒 / 入省2年目



担当業務

調達決議書・契約変更等決議書や支払関係書類の審査のほか、ADAMS（官庁会計システム）やELGA（電子決済基盤・証拠書類管理システム）に係る事務等に携わっています。

また、課内の非常勤職員に係る事務や庶務関係事務も担当しています。

会計課の職員による打合せの様子です。若手職員も意見を出しやすい雰囲気です。



志望動機

国民の生活を食の観点から支える仕事をしてみたいと思ったからです。普段から自炊をしたり、大学時代にアルバイト先の児童館で畑作業をしたりした経験から、特に自分の中で興味がある分野として「食」がありました。その興味関心を活かせる職場として、北陸農政局を志望しました。

仕事を通して学んだこと

「誰が見てもわかる仕事をする事の大切さ」です。自分が取り組んだ仕事を上司や課外の人に見せるときに、簡潔でわかりやすく説明することを意識すると、その後の仕事も円滑に進むことを学びました。課内の上司も、どのように改善したら伝わりやすくなるか等相談に乗ってくれるので、頑張っって良いものを作りたいたいという気持ちが高まりました。

主な業務内容

消費生活課

食の安全に関する正しい知識の普及啓発、食育の推進、「消費者の部屋」の運営、消費者相談窓口等の事務を行っています。

米穀流通・食品表示監視課

食品表示法、JAS法、米トレーサビリティ法、食糧法、農産物検査法、牛トレーサビリティ法及び水産流通適正化法に基づく監視業務を行っています。

農産安全管理課

農産物の安全性確保、病虫害の防除対策、輸出入に係る植物の検疫に関する情報の収集及び提供、農薬・肥料の安全性確保及び適正な使用、土壌汚染の防止・除去等の安全性確保等の事務を行っています。

畜水産安全管理課

畜水産物の安全性確保、飼料・動物用医薬品等の安全性確保及び適正な使用、牛トレーサビリティ、ペットフードの安全性確保等の事務を行っています。

見て行ってください！
「消費者の部屋」

北陸農政局では、庁舎1階の「消費者の部屋」において、消費者をはじめとした国民の皆様に農林水産行政等の情報を提供するために、パネルや関係資料等の展示を行っています。



また、管内各県のイベントや公共施設と連携して、農林水産施策に関するパネル展示やパンフレットなどの配布を庁舎外にて行う「移動消費者の部屋」も開設しています。



「消費者の部屋」について
詳しくはこちら！



04 消費・安全部

職員紹介

消費生活課 食育推進係

酒井 里咲 (さかい りさ)

法学類卒 / 入省1年目



金沢市の近江町交流プラザで行っている、食育に関するポスター展示です。展示内容は毎月変えています。施設利用者は子育て世代の方が多いため、子どもや女性の方に役立つ情報を届けられるよう意識しています。



担当業務

本省が主催する全国食育活動表彰や管内で実施する北陸農政局食育活動表彰に係る事務を担当しています。また、イベントの出展や食育に関するポスター等の展示物作成も行っています。

志望動機

食えることが好きで、業務を通して生産から消費まで、幅広く食に携わることができるという点に魅力を感じました。

仕事を通して学んだこと

ポスター等の展示物作成を行うことがあるため、どのような人に、何を伝えたいか、伝えるためにはどういった工夫をしたらよいかを意識するようになりました。より多くの人に食育について関心を持っていただけるよう、世代ごとのアプローチ方法を考えるようにしています。

主な業務内容

生産振興課

米・麦・豆類など主要農作物の生産・流通の改善等に関する指導・助成、米の用途別の需要に応じた生産・販売への助言等、麦・大豆・新規需要米等の生産振興等の事務を行っています。

業務管理課

主要食糧の売買管理等に関する業務、主要食糧の納付金の徴収・米穀の輸出入数量の届出に関する業務の事務を行っています。

園芸特産課

野菜、果樹、花き、工芸農作物等の生産・流通の改善等に関する指導・助成、需給等の調査、野菜価格安定対策等の事務を行っています。

畜産課

畜産の振興、畜産経営の改善、畜産物の流通・消費に関する指導・助成、畜産環境の保全、草地の整備、飼料の確保、地方競馬監督等の事務を行っています。

「農業」×「先端技術」＝「スマート農業」

「スマート農業」とは、「ロボット、AI、IoTなど先端技術を活用する農業」のことを指します。スマート農業技術を活用することで、農作業の効率化や農作業における身体の負担軽減、農業の経営管理の合理化による農業の生産性の向上の効果等が期待されます。



スマート農業についての詳細はこちら！



環境・技術課

農業技術の改良・普及、生産資材等のコスト削減、環境保全型農業の推進、地球温暖化対策、再生可能エネルギー・バイオマスの利活用促進等の事務を行っています。

経営政策調整官

経営所得安定対策等の推進・交付金の交付の事務を行っています。

05 生産部

職員紹介

畜産課 飼料増産係

林 佑香 (はやし ゆうか)

畜産学部卒 / 入省2年目



飼料用稲の作付けを普及する目的で、新潟県三条市にて農家さんや地方公共団体などを参集して開催した研修会の様子



鶏用の飼料用とうもろこしを生産している農家さんへ行った聞き取り調査の様子



担当業務

牧草など家畜のエサに関する事業の補助金交付業務等を行っています。デスクワークだけでなく、現地調査で農家さんとお話するために外へ足を運ぶこともあり、毎日が勉強の日々です。

志望動機

説明会や官庁訪問の際、職員の雰囲気良かったことです。実際に働いてみて、分からないことがあっても畜産課だけでなく他の課のみなさんも優しく教えてくれるので、温かい職場だと感じます。

仕事を通して学んだこと

農家さんの気持ちや地域事情を含めて、北陸の農業・畜産に寄り添えるよう心掛けています。農家さんや地方公共団体など様々な関係者とのやり取りを通じて、それぞれの現場に役立てるよう業務を進めるためには、上司に相談しつつ積極的に考えることが大切だと学びました。

主な業務内容

担い手育成課

農業の担い手の育成・確保、農業経営の改善・安定、地域計画策定の推進等の事務を行っています。

輸出促進課

農林水産物・食品の輸出の促進、海外事業展開、輸出証明書の発行、地理的表示、知的財産の保護・活用等の事務を行っています。

食品企業課

食品産業の育成振興、食品ロスの削減の推進、食品・容器包装リサイクルの促進、卸売市場の整備、商品市場における取引等の監督の推進、農商工連携の推進、食文化の振興等の事務を行っています。

農地政策推進課

農地の権利関係の調整に関する指導、農地の集積・集約化の推進、農業委員会の指導、国有農地の管理・処分等の事務を行っています。

経営支援課

新規就農の促進や青年農業者の育成、女性の農業経営への参画促進、農業経営体の育成支援、農業者の協同組織の発達、各種制度資金の調整等の事務を行っています。

「北陸食べて応援」を展開しています！

北陸農政局では、令和6年能登半島地震で被災した北陸地域の伝統的な食文化の発信とその食文化に関わる企業や農林水産漁業者の皆様を応援するため、北陸の郷土料理や伝統食などを紹介した冊子「北陸食べて応援」を作成し、観光案内所やイベント等で配布しています。



「北陸食べて応援」の詳細はこちら！



06 経営・事業支援部

職員紹介

食品企業課 流通・企業係

松下 渚 (まつした なぎさ)

地域創造学類卒 / 入省2年目



チューリップフェアにて、台湾人来場客に「北陸食べて応援」のパンフレット（英語版）を配布している様子



担当業務

食品の流通合理化、取引適正化を推進する業務を担当しています。

食品製造事業者を訪問し、原料やエネルギーコスト、労務費の上昇分を製品価格に転嫁できているか、省作成のガイドラインが適正取引推進に役に立っているかをヒアリングします。

志望動機

幼いころから食を食べること、料理をすることが好きで、食や農の魅力を発信したり、食を通じた生活の質の向上に貢献できるような仕事をしたいと思ったからです。

仕事を通して学んだこと

- 新しい企画に積極的に参加し、部や課を越えたつながりを持ったり、新しい視点や知見を得られる機会を大切にしたりすること。
- 分からないことは一人で抱えこまずに相談し、早く的確に解決できるよう努めること。

主な業務内容

設計課

土地改良事業の工事の設計・技術審査・指導、河川協議・水利権に係る他省庁との連絡調整等の事務を行っています。

用地課

国が行う土地改良事業の用に供する土地等の買収・使用やこれに伴う損失補償、土地改良事業等により造成された施設等の事業実施中における管理・処分等の事務を行っています。

水利整備課

国が行うかんがい排水事業の実施、県・団体が行うかんがい排水事業の指導・助言・助成、土地改良財産の管理等の事務を行っています。

農地整備課

国が行う農地再編整備事業等の実施、県・団体が行う農地整備事業、農道の整備事業、多面的機能支払等の指導・助言・助成、土地改良事業に係る営農指導等の事務を行っています。

北陸農政局における 復旧・復興に向けた活動

北陸農政局では、地震や豪雨などにより農地・農業用施設が被災した際に、MAFF-SATとして被災自治体に職員を派遣し、迅速な被害把握や早期復旧を支援しています。



農地における堆積土砂・流木の撤去
(輪島市市ノ瀬・北谷・西脇地内)

詳細はこちら！



地域整備課

県・団体が行う農村の整備事業、農業集落排水施設の整備事業、農山漁村活性化に係る交付金の実施等の指導・助言・助成等の事務を行っています。

防災課

国や県などが行う農地・農業用施設災害復旧事業等に関するほか、国が行う総合農地防災事業、地すべり対策事業の実施、県や団体が行う農地等保管理事業、海岸事業等の指導・助言・助成等の事務を行っています。

主な業務内容

農村計画課

農業振興地域の整備に関する連絡調整、農地転用・都市計画と農林漁業との調整、市民農園の整備、中山間地域等直接支払制度の指導・助成等の事務を行っています。

都市農村交流課

農林水産物や農林水産業に関わる多様な地域資源を活用し、付加価値の創出、農山漁村における所得と雇用機会を確保する農山漁村発イノベーション対策（地域活性化、農泊、農福、産業支援）等の事務を行っています。

土地改良管理課

土地改良区等の指導・監督、土地改良事業の手続・融資・事後評価、農用地の交換分合・換地等の事務を行っています。

農村環境課

農村地域及び土地改良事業に係る環境の保全、農地保全・水質保全対策、地質調査・地下水開発・保全及び地盤沈下等に関する調査、連絡調整及び指導、開拓不要地及び開拓不要物件の認定、鳥獣被害の防止対策等の事務を行っています。

事業計画課

国が行う土地改良事業地区等の調査・計画作成、県・団体が行う農地等の整備、農村整備、かんがい排水・防災等に関する事業計画地区の審査・指導等の事務を行っています。

「農泊」とは？

農山漁村において日本ならではの伝統的な生活体験と農村地域の人々との交流を楽しみ、農家民宿、古民家を活用した宿泊施設など、多様な宿泊手段により旅行者にその土地の魅力を味わってもらう農山漁村滞在型旅行を指します。北陸農政局では、特設Webサイト「北陸の農泊」を開設し、北陸地域の農泊の推進に努めています。



特設Webサイト
「北陸の農泊」はこちら！



07 農村振興部

職員紹介

都市農村交流課

地産地消推進係

大島 沙央里 (おおしま さおり)

法学類卒 / 入省6年目



農泊地域を見学した際に、
スノーモービルに乗車させてもらいました！



担当業務

農泊の推進、6次産業化（産業支援）など、農林水産業に関わる多様な地域資源を活用し、所得向上や雇用機会の創出といった農山漁村の活性化に係る業務を担当しています。

志望動機

祖父が米農家をしており、幼い頃から田植え作業などのお手伝いをしていたので農業への関心は高かったです！また、食べることが大好きなので、生きるうえで欠かせない食を支える仕事に魅力を感じ、志望しました。

仕事を通して学んだこと

普段食べているお米や野菜などの需給安定（安定的に食料が行き渡ること）に関わらず、それを生産するための基盤強化（生産者の経営面での安定・ダムや土地改良などの整備）にも関わっており、学びきれません！

色んな分野の方と交流すると、刺激になって楽しいですよ！

主な業務内容

調整課

統計調査に関する総合調整、総務関係の連絡調整、統計品質管理等業務を行っています。

統計企画課

各部との連絡調整、統計データの整備・管理、地域における農林水産施策の推進に必要な統計データの提供・分析、統計調査員等の指導・管理業務を行っています。

経営・構造統計課

農林漁業者の経営状況や生産コストを把握する調査、農林水産業に関する基本構造（経営体数、従事者数）の把握のための調査、農業産出額等の取りまとめ業務を行っています。

生産流通消費統計課

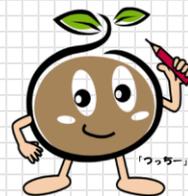
農作物の生産実態を把握するための面積・生産量統計調査、畜産物・林産物・水産物の生産に関する統計調査、各種流通・消費統計調査等の業務を行っています。

農林業版国勢調査？「農林業センサス」

農林水産省では、農林業・農山村の現状と変化を的確に捉え、きめ細かな農林行政を推進するために、各種統計調査を実施しています。

農林業センサスは、我が国の農林業の生産構造や就業構造、農山村地域における土地資源など農林業・農山村の基本構造の実態とその変化を明らかにし、農林業施策の企画・立案・推進のための基礎資料となる統計を作成・提供することを目的として、5年ごとに農林業を営んでいるすべての農家、林家や法人を対象に行う調査です。

ちなみに「センサス」の語源は、古代ローマにおいて、市民の登録や財産・所得の評価、税金の査定などを行う職業をラテン語で“Censere”と呼んでいたことに由来します。



農林業センサス
マスコットキャラクター

農林業センサスの
詳細はこちら！



08 統計部

職員紹介

生産流通消費統計課

生産統計第2係

小松 佳穂 (こまつ かほ)

農学部卒 / 入省4年目



担当業務

農作物の作付面積や収穫量を把握する「作物統計調査」のうち、果樹調査の北陸管内分の取りまとめを担当しています。調査結果を本省へ報告する際には、調査結果に疑わしいところがないか様々な情報と比較して、審査をしています。

志望動機

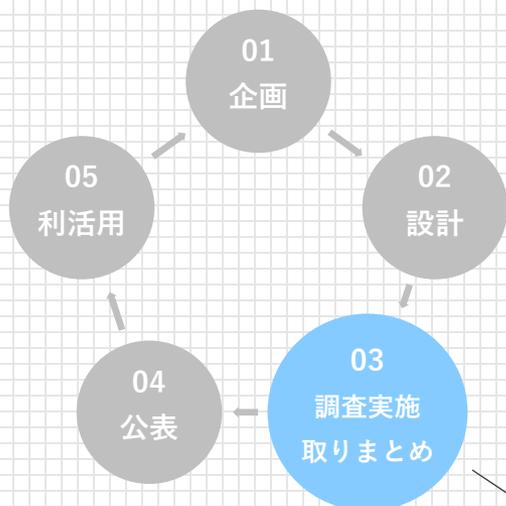
旅先の直売所やスーパーに寄って地域の特産品を見ることが好きで、かつ大学では農学部だったので、学んだことを生かして食に関われる仕事に就きたいと思い志望しました。

仕事を通して学んだこと

新聞等のメディアを細かくチェックするのはもちろん、直売所やスーパーで産地や価格に注目するなど、情報収集についてアンテナを高くすることが大事だと学びました。

農林水産統計ができるまでの流れ

調査客体に郵送する調査資材を準備しているところです。



- 面接、郵送等
- 審査・集計

09 県拠点・国営事業所等

主な業務内容

県拠点（新潟、富山、石川、福井）

「農林水産業・地域の活力創造プラン」や新たな「食料・農業・農村基本計画」に基づく農政改革を着実に推進するため、農政についての説明や相談に対応する農政全般に関する総合窓口として、自治体等と協力して農政課題の解決に取り組むとともに、経営の安定、統計調査等の事務を行っています。また、新潟県拠点においては、食品表示監視等の事務も行っていきます。



農業者との
意見交換の様子

小学校での
出前授業の様子



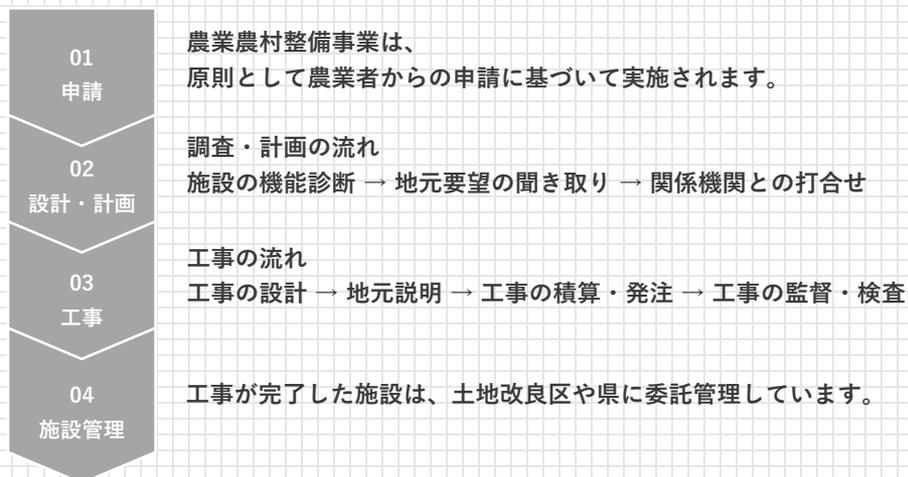
大臣感謝状授与の様子

国営事業所・事務所

国営事業所・事務所では、農業農村整備事業の調査・計画・実施を行っています。

農業農村整備事業とは、農業を支援するため、農業用水を確保する施設（ダム・取水堰等）や排水施設の建設、営農条件を改善する田畑の整備、農村環境の整備を行っている事業の総称です。

農業農村整備事業の流れ



写真：水橋農地整備事業所 事業地区（富山市）



区画の
大型化



09 国営事業所等

職員紹介

水橋農地整備事業所

用地課 用地補償係

福益 大輝 (ふくます ひろき)

経済学部卒 / 入省2年目



担当業務

用地補償に関する各種報告書作成や電柱等公共物の移設に伴う補償業務を担当しています。また、地区界測量業務において請負業者と業務に係る連絡や確認なども行っています。最近では、関係機関との打ち合わせにも参加し、その内容を記録簿として整理・作成しています。

志望動機

土地改良事業に携わることで、安心して営農できる環境を整えたいと思い志望しました。現在、水橋農地整備事業所において、ほ場の大区画化等の事業に携わっており、農業の基盤を支えるというやりがいを日々実感しています。

仕事を通して学んだこと

仕事を通して、報告・連絡・相談の重要性を学びました。その中でも特に相談が大切だと実感しました。最初は、何を・いつ・どのように進めればよいのか分からず、戸惑うこともありましたが、経験豊富な上司や先輩方に相談することで、業務の進め方に道筋を立てることができました。



地区界測量業務に係る
地元説明会の様子



上水道管移設の工事に伴い、
水道局及び関係業者と
現地で打合せをしている様子

新規採用者からのメッセージ

北陸農政局を志望した動機

能登半島地震の被害を受けて営農意欲を失った農家の方に関するニュースを見て、そうした方を支えたいと考えたからです。また、業務説明会で職場の雰囲気の良さが感じられ、魅力的に感じたことも大きな理由です。

入省1年目の抱負・やりたいこと

目の前の仕事を確実にこなす。体調管理を徹底する。

就活生へのメッセージ

不安でいっぱいだと思いますが、周りの人をたくさん頼りながら、ほどよく頑張ってください！



消費・安全部
消費生活課
食情報係

北陸農政局を志望した動機

食べることが好きで、業務を通して生産から消費まで、幅広い分野において食に携わることができる点に魅力を感じたからです。

入省1年目の抱負・やりたいこと

今は目の前の業務をこなすことで精一杯ですが、業務の中で得られる様々な学びを大切にしていきたいです。

就活生へのメッセージ

就活は大変かと思いますが、自分を信じてがんばってください！また、少しでも興味のある官庁・企業にはぜひ足を運んでみてください。



消費・安全部
消費生活課
食育推進係

北陸農政局を志望した動機

北陸の農業を支えたいと思ったからです。また、説明会の際に、職員の間やかな雰囲気を魅力に感じ志望しました。

入省1年目の抱負・やりたいこと

早く自分の仕事に慣れる！プライベートも充実させる！

就活生へのメッセージ

頑張ったら頑張った分だけ自分に返ってきます。最後まで諦めず頑張ってください！応援しています！



農村振興部
水利整備課
調整係

北陸農政局を志望した動機

地元北陸の食の魅力を多くの人に知ってほしいという思いと、説明会で感じた和やかな雰囲気が決め手になりました。

入省1年目の抱負・やりたいこと

北陸の美味しいもの巡りをして、もっと多くの北陸の魅力を発掘したいです。

就活生へのメッセージ

辛い時期もあると思いますが、自分を信じて頑張ってください。応援しています。



経営・事業支援部
輸出促進課
係員

北陸農政局を志望した動機

様々な分野から農業に関する問題の解決に関わりたいたいと考えたからです！

入省1年目の抱負・やりたいこと

仕事を早く覚えられるように頑張りたいです！

就活生へのメッセージ

つらいこともあるかもしれませんが、息抜きもしながら自分のペースで頑張ってください！



総務課
サービス・管理係

北陸農政局を志望した動機

大学で農林水産業に携わる方々と関わる機会があり、そこから農政局で働くことで地域の農林水産業の発展に貢献していきたいと思い、北陸農政局を志望しました。説明会での雰囲気が良かったのも志望動機の一つです。

入省1年目の抱負・やりたいこと

早く仕事に慣れて、先輩職員のみなさんのようにかっこよく仕事ができるようになりたいです。プライベートではたくさん旅行に行き、様々な体験をしてみたいです。

就活生へのメッセージ

自分の将来について考える機会が多く、悩むこともあると思いますが、自分のやりたいことができる環境を大切にしてほしいと思います。就活生のみなさん一人一人に合った道が選択できるよう応援しています。



経営・事業支援部
農地政策推進課
農地企画係

北陸農政局を志望した動機

生きていく上で切り離すことのできない「食」という分野において活躍できる仕事だから。説明会や面接など職員の方の間やかな雰囲気に魅力を感じました。

入省1年目の抱負・やりたいこと

上司を頼りながら仕事を早く覚えて、日々成長したい。

就活生へのメッセージ

息抜きをしながら、就活後の楽しみを考えながら、自分のペースで頑張ってください！



農村振興部
農地整備課
調整係

若手がどんどん行動しています①

・ チーム2050

勤務時間の1～2割で新規の課題解決プロジェクトを立案・実行。
所属部局に関わらず関心のある職員がチームを組み、政策立案。
予算の活用も可能。

【取組例：チーム2050「20年後の農政を考えるPT」】

20年ぶりの食料・農業・農村基本法の見直しに向けて、政策を提言。

日経新聞に
加藤浩二さんたちとの対談が
掲載されました→



若手がどんどん行動しています②

• BUZZ MAFF

霞ヶ関初！ 官僚系 YouTuber 誕生

【設立】 2020年1月7日

【チャンネル登録者】 15万人以上

農林水産省職員自らが省公式 YouTube チャンネルで YouTuber となるなど、担当業務にとらわれず、その人ならではのスキルや個性を活かして、我が国の農林水産物の良さや農林水産業、農山漁村の魅力を発信するプロジェクト。



語・流行語トップテン



研修制度

1年目には、採用後すぐに行われる本省主催の「**新規採用者研修**」だけでなく、

- **新規採用者職場研修**
- **北陸農業の概要を学ぶ研修**
- **県拠点現地研修**
- **幹部職員出張随行研修**
- **北陸農業現地勉強会** 等、

北陸農政局独自の研修を多数実施。



2年目には、ミクロな視点を身につけ、現場感覚を養うため、**農業者のもとで1週間現場修行を行う「農村現地研修」**を実施。

その後も、役職や職務に応じて北陸農政局、農林水産省本省、人事院などそれぞれが実施するバラエティーに富んだ研修に参加することで、**スキルアップを図る。**

- ミクロな視点を身につけ、現場感覚を養うため、入省2年目職員は農林漁業者のもとで**1週間現場修行**を行う



<具体例>

派遣先：北陸地域内の農家

主な仕事：

- ①農作物の収穫作業
- ②農産物の加工作業
- ③加工製品の梱包作業、ラベル貼り等
- ④出店イベントのサポート 等々

その他：

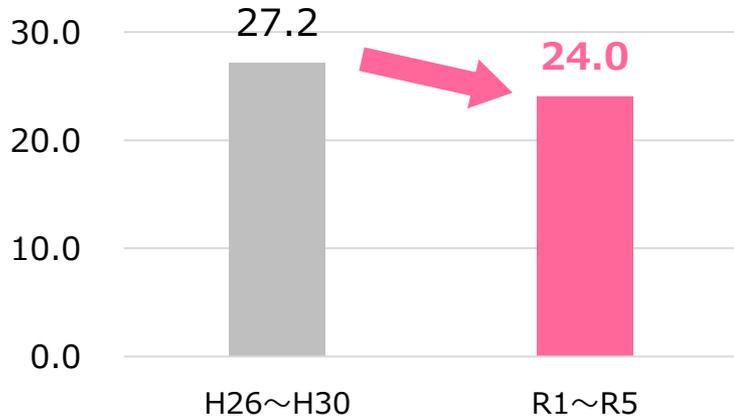
- ①近所の農家の方のお手伝い
- ②地域イベントへの参加
- ③JAとの意見交換に同行 等々

1週間、農家の一員として働くので、農村地域の抱える課題・都会にはない田舎の濃い人間関係、農水省の政策の現場での受け止められ方などをリアルに見ます。

職員の働き方（働き方改革）

○ 超過勤務時間は減少傾向

（時間/月）



出典：農林水産省HPを基に作成

○ 職員一人当たりの超過勤務時間（一月あたり）

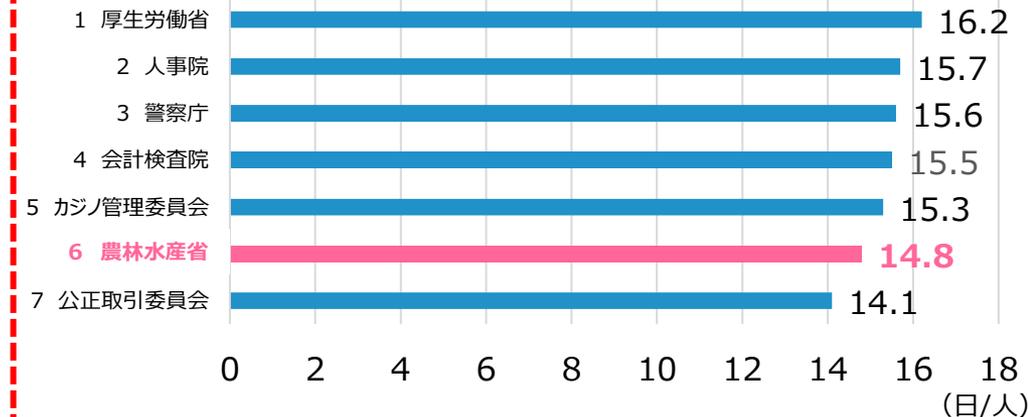
本省 （常勤職員）	22.0時間
地方機関 （常勤職員）	6.7時間
合計	10.7時間

※令和5年における職員一人当たりの平均超過勤務時間数。
出典：農林水産省HP

○ 休暇取得

一人当たりの年次休暇取得日数は、**全省庁で6番目**

年次休暇取得日数（国家公務員（行政））



出典：内閣府男女共同参画局 女性活躍推進法「見える化」サイト R4年末数値

○ 多様な働き方～テレワーク等～

- ・テレワーク、フレックスタイム制度、早出遅出出勤など、ライフスタイルに合わせた勤務時間の選択が可能。
- ・令和2年度実績では、**テレワークの実施回数**が多い府省（本省）で農林水産省は**全省庁で3番目**（国家公務員テレワーク取組状況等調査より）。

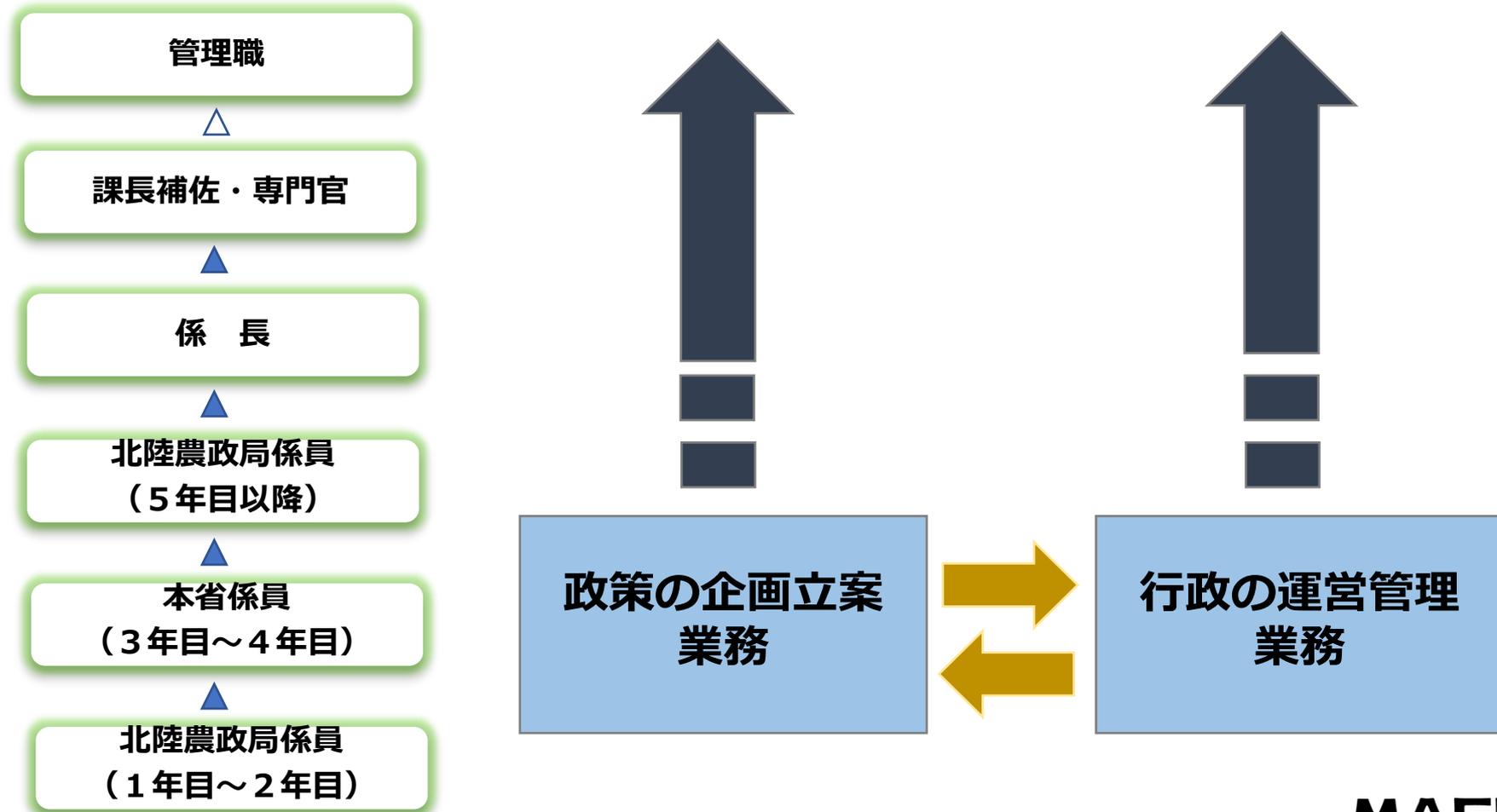
働き方改革
キャラクター



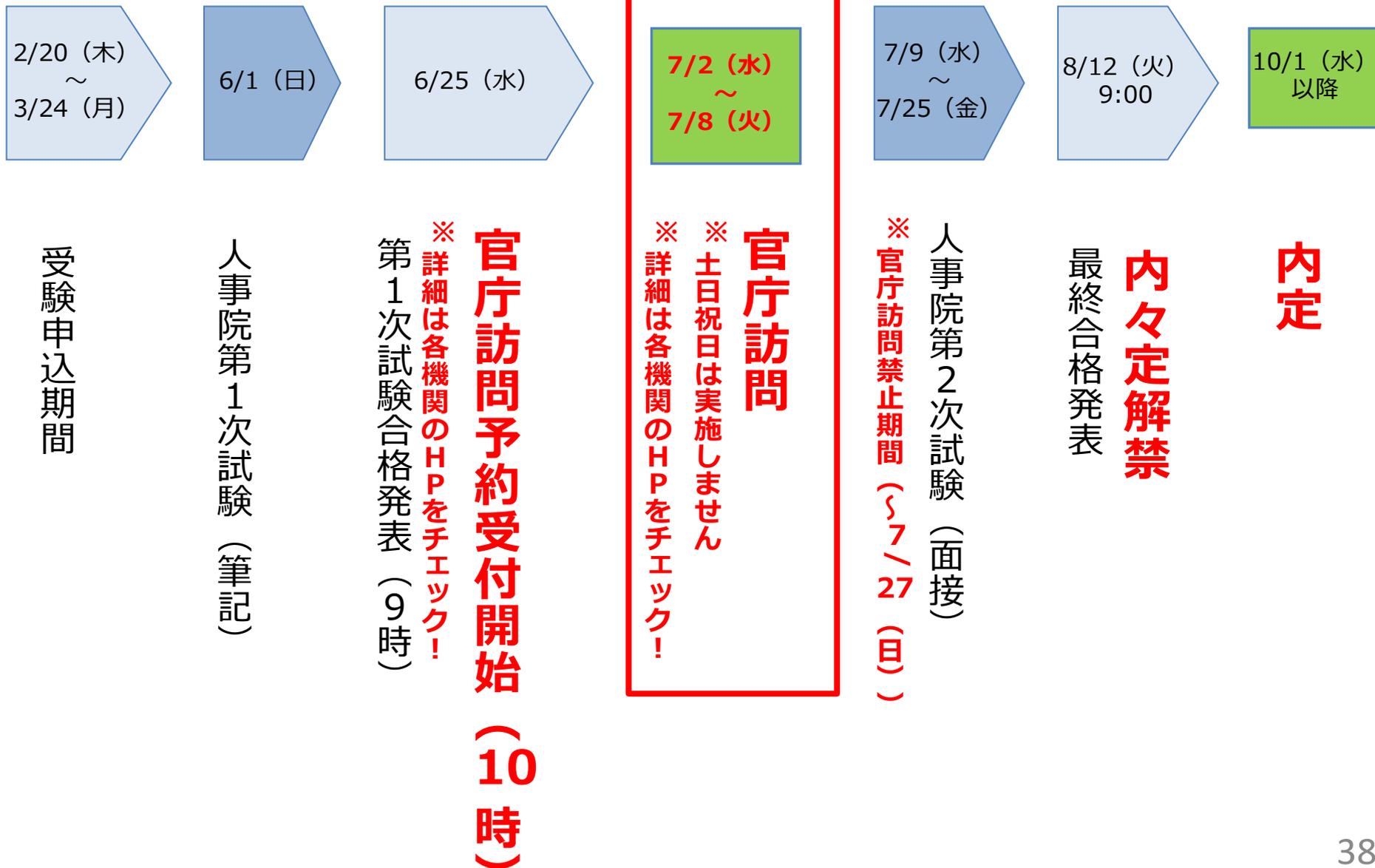
入省後のキャリアパス

北陸農政局において概ね2年スパンで行政の運営管理や施策の実施に関する業務経験を積みつつ、農林水産省本省勤務も経験し、様々な部署を経験して行く中で、それぞれの希望と適性にあつた専門分野のスペシャリストとして活躍！

また、本人の意欲と適性があれば他の地方農政局での勤務、さらには農林水産省の他の機関、他府省などで活躍する場も開かれ、様々な業務経験を積みながらキャリアアップを図っていく。



採用スケジュール（2025年度一般職試験大卒程度）



北陸農政局への就職のご案内（よくある質問①）

Q 最近の採用実績を教えてください。

採用年度 試験区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
行政（うち女性）	11（5）	11（6）	14（7）	18（10）	14（12）

※ 表の記載年度の前年度に実施した試験により採用した人数

Q 北陸農政局ではどのような人材が求められているのですか？

A 農林水産業・食品をめぐる情勢は、国際競争力の低下、担い手の高齢化など様々な課題に直面しており、常に新しいアイデアが必要とされています。採用に際しては、**成績の善し悪しや性別、当然ながら出身高校・大学にもとられるつもりは全くありません。**ひとえに**人物本位**で採用を行っていますので、「**生命を支える「食」と安心して暮らせる「環境」を未来の子どもたちに継承していく**」ための情熱と積極性のある方には是非入省してほしいと考えています。

Q 農林水産分野と関係のない学部でも採用されるのですか？
また、農業に関する知識がないと採用されないのですか？

A **学部に関係なく人物本位**で採用しています。出身学部に関わらず様々な場所で日々活躍しています。また、官庁訪問に当たり、細かい知識は全く必要ありません。**就職した後、仕事の中で常に学び続ける姿勢が大切**だと考えています。

北陸農政局への就職のご案内（よくある質問②）

Q 説明会の参加回数は、採用に関係しますか？

A 説明会は採用広報活動の一環として開催するものであり、**説明会への参加の有無が採用に影響するものではありません**。なお、説明会では農林水産省及び北陸農政局の業務内容の紹介をはじめ様々なコンテンツを用意し、多彩な職員を派遣して開催しておりますので、皆さんが**就職先や志望官庁を考えるにあたっての一つの検討材料として、気軽にお越しただいただければ**と考えております。

Q 国家公務員試験の点数（順位）は採用に関係するのですか？

A 国家公務員試験を最終合格した方であれば、**点数・順位は一切関係ありません**。

Q 転勤はどのくらいの頻度でありますか？

A **人事異動のサイクルは約2～3年ごとですが、必ずしも転居を伴う異動（転勤）があるわけではありません**。多くの職員が金沢市内で勤務しており、本局内の異動も多々あります。また、**転勤にあたっては職員の家庭状況も十分に配慮することとしております**。

Q 配属はどのように決まるのですか？ 希望は聞いてもらえますか？

A **本人の意向や希望とともに、上司の評価等を参考にしたうえで、本人の適性を考慮し決定します**。若手のうちには、**おおむね2年程度で本省を含め様々なポストを経験していただきながら、将来的に、自分にあつた分野のスペシャリストになってもらいます**。

ニッポンは、ずっと「おいしい」か？

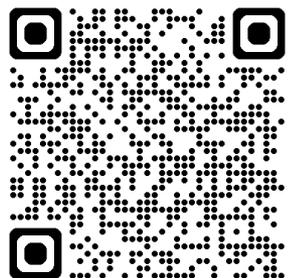
みなさんがこれから、
商社に入っても、
電機メーカーに入っても、
建設業界に入っても、
IT業界に入っても、
知らん顔できないのは「食」のこと。

ありがとうございました！

何かわからないことがあれば、
いつでも気軽にお問い合わせ下さい。

■北陸農政局採用ページ

<https://www.maff.go.jp/hokuriku/guide/about/jinjika.html>



■農林水産省採用ページ

<https://careers.maff.go.jp/>



■お問合せ先：北陸農政局総務課 一般職行政採用チーム

○採用担当：佐藤、太田尾、坊、萩原

MAIL：hoku_nousei_jinji1@maff.go.jp

TEL：076-232-4184

